

1999年度
講義計画

桃山学院大学

講 義 計 画

1999年

精義信圖

分館定例大

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
生産管理論		通 期	4 単位	鬼 塚 光 政
[講義概要・学習目標] 産業革命期の英・仏国に芽生え、19世紀末から米国で本格的に展開し、1970年代以降日本で新たに展開した「近代的生産管理」の生成・発展の過程を経済的、社会的、技術的等の背景を踏まえて段階的に跡づけ、各段階の代表的な生産管理の特徴、並びに意義と限界を講述する。この場合はじめに資本制企業における生産管理の基本的性格、およびその分析の視点とそのための基礎概念を明確にする。 <学習目標> (1) 生産管理の基本的性格と分析視角 (2) 生産管理システムの分析に必要な基礎概念 (3) 各段階の代表的生産管理方式の形成条件、内容的特徴並びに意義と限界 (4) I E, S Q C, O R, V E, S E等の経営科学的手法の生産管理への適用 (5) 生産管理の実践と社会・自然との関係	[講義計画] <前期> 1.オリエンテーション(1回) 2.生産管理の基本的性格と分析視角(5回) 3.中間試験(1回) 4.生産管理前史(3回) ①生産管理の萌芽 ②初期大量生産の成立 <後期> 5.生産管理の成立(4回) 課業管理の成立と展開 6.生産管理の発展(4回) 本格的な大量生産方式の展開 -同時管理・システム管理 7.多種多量生産型システム管理の展開 - J I T, F A・C I M 8.国際化段階の生産管理 - 「日本の生産システム」の海外移転			
[成績評価の方法] 前期末・学年末試験の成績と出席状況を総合的に勘案する。	[参考文献] 太田雅晴、『生産情報システム』、日科技連 門田安弘、『新トヨタシステム』、講談社 藤本隆宏、『生産システムの進化論』、有斐閣 佐武弘章 『トヨタ生産方式の生成・発展・変容』、東洋経済新報社			
[教科書] 追って指示する。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
マーケティング論		通 期	4 単位	鈴 木 幾 多 郎
[講義概要・学習目標] 市場創造は企業にとって永遠の課題であり、マーケティングはそれを担う企業の対市場活動である。 従来、日本企業は、パワー・マーケティングを基本範疇として、マーケティング力を形成してきた。パワー・マーケティングとは、市場シェアの向上を目指し、それを基盤とするパワー（市場支配力）によって、市場創造を行おうとするマーケティングである。しかし、各産業市場の成熟化、種々の規制緩和、独占禁止法運用の強化、日本市場の国際開放化、情報化など、市場の基礎的・制度的条件が大きく変貌し始めている。 本講義では、日本企業のマーケティングの基本的特徴とその批判的検討を踏まえて、今後のマーケティングのあり方を取り上げることにする。	[講義計画] 前期では、マーケティングの基本的知識と日本企業のマーケティングの基本的特徴について講義する。 後期では、市場の基礎的・制度的条件の変化を踏まえて、新しいマーケティングの方向について講義する。			
[成績評価の方法] 前期・後期の試験とレポートで評価する。	[参考文献]			
[教科書] 嶋口充輝・石井淳哉『現代マーケティング（新版）』有斐閣1977年。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
流通論 (旧流通経済論)		後期集中	4単位	岸 本 裕 一
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>流通経済論は、生産と消費との間の懸隔を架橋する経済活動である流通を研究対象として、これを国民的経済的視点から研究を行うものである。この研究は、大別すれば、理論的研究と規範的研究とに分類される。理論的研究は、流通を説明し、予測する法則ないし理論の発見を目的として行われるものであるが、この研究には、膨大な実証的研究の蓄積が必要とされる。規範的研究は、流通効率をあげ、望ましい流通を実現するためにはどうすべきかの方策を考察し、その指針を作成することを目的としている。このような流通経済論の方法上の裏付けとして用いるのは、システム論、計量経済学の諸手法（構造パラメータの計測、モデル、シミュレーション分析など）及び行動科学の諸手法（購買生起モデル、セマンティック・ディファレンシャル法など）等の分析である。この講義では、これらの分析手法や、それによる分析成果をわかりやすく説明しながら、流通システムの構造や現在の問題点などを説いていく予定である。</p>		<p>[講義計画]</p> <p>0. 世界経済のトレンドと流通</p> <p>1. 流通経済の範囲と対象</p> <p>2. 流通経済の分析理論と分析手法</p> <p>3. 流通経済研究の歴史</p> <p>4. 流通をめぐる環境変化と流通へのインパクト</p> <p>1) インターネット 2) グローバル化</p> <p>3) 規制緩和 4) 流通関連法の改正</p> <p>5. 小売流通をめぐる諸問題</p> <p>6. 卸売流通をめぐる諸問題</p> <p>7. 市場調査の方法と実際</p> <p>8. サービス流通（やすらぎ産業）の展開</p> <p>9. 広告とポピュラーソング</p> <p>10. 今後の流通経済の展望</p> <p>——地域経済と世界経済——</p>		
<p>[成績評価の方法]</p> <p>定期試験と平常点との総合評価により行う。</p>		<p>[参考文献]</p> <p>進行にしたがって指示する。</p>		
<p>[教科書]</p> <p>岸本裕一・田中達彦共著 『タイアップソング・マーティング』同文館 1998年</p> <p>岸本裕一編著 『食品流通システム論』中央経済社 1999年</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
銀行論		通 期	4単位	津 田 和 夫
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>銀行に関する数多くの問題を、戦後の歴史を振り返りながら様々な視角から研究し、現代の金融ビッグバンの理解を深める。</p> <p>研究対象は銀行の基本機能、金融システムの戦後史、金融政策、証券業との関係、公的金融との関係、等が基本になるが、膨大な不良債権、低金利政策の是非、大蔵省による保護行政の破綻、預金者保護等、国民生活に重大な影響がある課題も集中的に採り上げる。</p> <p>改正日銀法が施行され金融行政が衣替えし、外国為替管理法が改正（原則的な規制撤廃）され我々一般国民でも外貨取引が自由になり、また銀行による投資信託の販売が開始され証券会社との垣根が低くなり、さらに金融持株会社の実現も見通せる段階に入った。</p> <p>このように改革はかなりの早さで、かつ深く進行し、国民生活に大きく影響するので、時事問題も随時採り上げる。</p>		<p>[講義計画]</p> <p><前期> 教科書1章から3章まで</p> <p><後期> 教科書4章から6章まで</p>		
<p>[成績評価の方法]</p> <p>期末試験、出席状況、中間レポート（随時実施）</p>		<p>[参考文献]</p> <p>津田和夫（著）「巨大銀行の構造」（講談社・現代親書）</p> <p>日本銀行・金融経済研究所（編）「我が国の金融制度」（日本信用調査）</p> <p>鈴木淑夫・岡部光明（著）「実践ゼミナール日本の金融」（東洋経済新報社）</p> <p>堀内昭義著 金融システムの未来—不良債権とビッグバン—（岩波新書）</p>		
<p>[教科書]</p> <p>津田 和夫（著）「現代銀行論入門」（経済法令研究会）最新版</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
証券論		通 期	4 単位	岡 崎 守 男
[講義概要・学習目標] 証券論で取り扱う証券は、株式会社の発行する株式、社債、それに国の発行する公債などを総称した資本証券である。この講義では、現代の経済のなかで重要な役割を果たしているこれらの資本証券の発行と流通のもつ意味、それを支える証券市場の諸制度、証券の流通に伴う価格形成、株式所有とそれを通しての支配の問題などについて、なるべく具体的な事実を紹介しながら勉強する。		[講義計画] 〈前期〉 ① 証券論の対象としての有価証券 ② 株式会社における株主の諸権利＝株式、株式の種類、株式会社制度の特徴 ③ 債券(概念、種類) ④ 証券業務(発行、流通) 〈後期〉 ⑤ 証券市場(発行市場、流通市場)＝証券取引所、証券会社、信用取引、先物取引、投資信託 ⑥ 証券の価格形成(株式、債券)、擬制資本、価格指標 ⑦ 株式の所有と支配		
[成績評価の方法] 期末試験によって行う。原則として出席はとらないが、授業中に不定期に小テストを行うこともある。		[参考文献] 川合一郎(著)『著作集第3巻「株式価格形成の理論」』(有斐閣)		
[教科書] 財経詳報社編「図説 日本の証券市場」(財経詳報社)				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
保険論		通 期	4 単位	武 田 久 義
[講義概要・学習目標] 保険は、リスク処理の一手段である。したがって保険は、広範なリスク・マネジメントとの関連において理解されなければならない。そこで、リスクの分析が第一になされる必要がある。しかし現在の社会では、保険がリスク・マネジメントの中心的位置をなしている。現実には、保険とその制度の講義に重点がおかれることになる。		[講義計画] 前期 リスクとリスク・マネジメントについて。保険の意義と役割。保険の組織と保険制度。保険と保障。 後期 代表的な保険についての解説。保険の歴史と将来の保障。リスク、保険と社会、文化。		
[成績評価の方法] 期末テスト, レポート等。		[参考文献] ① 武田久義外、「講義保険総論」、法律文化社 ② 前川寛、「現代保険論入門」、中央経済社		
[教科書] プリントを配付する。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
国際経営論		後期集中	4 単位	網 野 俊 賢
[講義概要・学習目標] 経営学が主な対象とする企業の経営はいろいろな意味で急速に変化しています。その中でも企業の国際化は著しく、その側面を見ないで企業の経営を理解することは極めて困難となって来ました。さらに企業の国際化は単に大企業に止まらず、多くの中小企業をも巻き込む幅の広い動きとして見る必要があります。将来皆さんがいかなる仕事を選択するにせよ経営学を学ぶ者として国際経営の研究は必須項目と言えるでしょう。本講義では国際化を進める日本の大小さまざまな多国籍企業の行動に焦点を当てて、こうした企業の国際戦略を知ると共に、マーケティング、海外生産、研究開発といった領域での具体的な行動を学ぶことによって国際経営が意味するものを理解しようとしています。また企業の国際展開は世界各地で文化的な背景を異にする人達が同じ職場で働くといういわゆる異文化経営を生み出します。いくら本社で立派な戦略を立てても、現地での異文化経営が正しく行わなければ戦略の達成は出来ません。その意味で多国籍企業の異文化経営の良否は企業の業績を大きく左右しかねないものと言えます。従って講義の中では異文化経営に関する勉強にもかなりの時間を割くようにします。本講義では講師自身が長年にわたり多国籍企業における実際の経営にたずさわったという実務経験を活用する意味で、国際経営に於いて生じる具体的な事例をケース・スタディの形で多く取り上げ皆さんに国際経営の疑似体験をしてもらい、より一層理解を深めるように工夫したいと思えます。	[講義計画] この講義で取り上げる主な項目 (1) 多国籍企業とは (2) 多国籍企業の国際経営戦略 (3) 国際マーケティング (4) 海外生産 (5) 海外研究開発 (6) グローバル経営とは (7) 異文化経営 (異文化の理解、コミュニケーション、社会慣習や法律など) (注) 後期集中講義の為、一日の授業が2時間分となりますが、最初の90分は主に多国籍企業の国際展開に、後半の90分は異文化経営に焦点を当てることによってバラエティに富む授業展開を図りたいと考えています。			
[成績評価の方法] (1) 出席を重視し最低出席必要回数は授業総回数の三分の二とします。 (2) 期中に数回の小テストを行うと共に期末に筆記試験を実施します。 (3) 次回に取り上げる項目について教科書を事前に読んでおくことを求め、講義の途中でその内容について質問いたします。またグループ討議によるケース・スタディも行い授業への参画を重視して成績にも反映させます。	[参考文献] (1) 吉原英樹著「日本企業の国際経営」 同文館刊 ISBN4-495-35381-0 (2) 福列正晴・全在紋編著「環太平洋圏企業経営への提言」 同文館刊 ISBN4-495-35941-X (3) 安室憲一著「国際経営」 日経文庫 ISBN4-532-10535-8 以上			
[教科書] (1) 吉原英樹著「国際経営」 有斐閣刊 ISBN4-641-12036-6 講義開始前に必ず大学構内の書店で買求めておいて下さい。教科書を持っていないと講義内容を理解することは不可能です。 (2) 補助資料として講師作成のプリントを随時配付します。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
国際マーケティング論 (旧貿易論)		通 期	4 単位	太 田 一 朗
[講義概要・学習目標] 1989年の東西冷戦終結に続くソ連邦、東欧圏の崩壊により世界経済はメガコンペティション (大競争) の時代に入りました。そして現在日本を含むアジア経済の不況は深刻な需給ギャップ (需要<供給) を生み出している。今や企業は業種、規模を問わず常に世界を視野に入れ戦略を立てなければならぬ。このような時、国際マーケティングは益々重要になってきている。この国際マーケティング論では、まず国際マーケティングの基本問題、ついで国際マーケティングの戦略、さらには国際マーケティングの実態、そして国際マーケティングの展望などについて勉強する。これらの勉強に当たっては実例を出来るだけ引用するつもりである。尚、マーケティングの知識がなくても受講できるよう、はじめに講義を理解する上で必要なマーケティングの基礎を学習する予定である。	[講義計画] <前期>マーケティングの基礎 4P's 等 国際マーケティングの基本問題 経済発展とマーケティングの進化など 国際マーケティングの戦略 市場細分化、市場進出、複合化戦略など <後期>国際マーケティングの実態 総合商社、電子産業、自動車産業など 国際マーケティングの展望 国際政治、世界市場			
[成績評価の方法] 前・後期末テスト、小テストおよび出席による。	[参考文献]			
[教科書] 門松正雄/大石芳裕編著 『国際マーケティング体系』 (ミネルヴァ書房)				

《インテグレーション科目》

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 チ ー プ
経営・商学特講（企業家精神と企業経営）		前 期	2単位	鈴木 幾多郎
<p>【講義概要・学習目標】</p> <p>今日、起業および企業家精神に対する期待が高まっている。この背景には長期の不況、円高などの経済の空洞化に対する雇用不安から解放されるためには新しい産業が起こる必要があることがあろう。現実の日本経済では、開業率が低下する一方で、廃業率が上昇し、企業数が減少していく状況となっている。</p> <p>この講義では、さまざまな業界で起業家として成果をあげている本学の先輩の体験談を中心に、起業することの難しさや面白さ、企業経営の実践的な体験などの生の情報を通じて起業および企業家精神について学ぶことを目的としている。</p>		<p>【講義計画】</p> <p>本年度分は未定。参考までに1998年度の講義スケジュールを紹介しておく。</p> <p>1998年度「経営・商学特講－企業家精神と企業経営－」の講義スケジュール</p> <p>4月15日 今木秀和 「この講座のイントロダクション」</p> <p>4月22日 松下晴彦氏 「ビルゲイツの一人勝ち」</p> <p>5月6日 安田憲司氏 「会社に期待される人間像」</p> <p>5月13日 倉橋 勝氏 「グローバル社会とキャリアストラテジー」</p> <p>5月20日 中道純二氏 「家業の継承と革新」</p> <p>5月27日 藤原達治郎氏「スポーツクラブ経営に学ぶ－無一文から年商100億の秘訣－」</p>		
<p>【成績評価の方法】</p> <p>レポートを提出してもらう。出席を重視し、毎回講義の要約をその時間中に提出してもらう。以上を総合的に評価する。</p>		<p>【参考文献】</p> <p>追って指示する。</p>		
<p>【教科書】</p> <p>使用しない。</p>				

《インテグレーション科目》

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 チ ー プ
経営・商学特講（ホンダの米国現地経営）		通 期	4単位	鬼塚 光政
<p>【講義概要・学習目標】</p> <p>本田技研工業（株）は、日本の自動車メーカーとしては最初に北米での現地生産に乗り出し、当初から華々しい成功を収め、今では自動車生産の全部面－開発・設計、生産技術、製造および販売－を現地化し、北米で生産されたホンダ車は北米市場で日本製ホンダ車と変わらないパフォーマンスを発揮して揺るぎない地位を築きつつあるばかりでなく、日本を含むアジア、ヨーロッパ等その販路は世界大に広がっている。それに伴い北米は日本と並ぶホンダの一大戦略拠点になるのみならず、現地の雇用改善、地域社会の活性化、国際収支の改善等に寄与できる「アメリカの会社」として認知されつつある。</p> <p>この講義はホンダの北米の製造拠点であるHAM(Honda of America Manufacturing)社の経営の実際を専門的立場から総合的に捉え、同社は経営の各側面から現地の企業社会や地域社会でどのような問題に直面しつつあるか、「日本的経営」を文化の異なる現地に移植できるのか否か、移植できるとしたらどの様な形でできるのか、またどのように経営業績を上げつつあるか、等々の観点から考察する。講師陣は本学総合研究所の研究プロジェクトとして実施された「HAMの総合的研究」(1994年4月～1998年3月)のメンバーとホンダ側協力者である。</p>		<p>【講義計画】</p> <p>オリエンテーション 経営戦略 部品調達 人事・労務 生産管理 販売展開 地域社会関係 異文化コミュニケーション 財務指標 現地駐在員の税務問題 *計画を一部変更することがあり得る。</p>		
<p>【成績評価の方法】</p> <p>出席状況、発言状況およびレポート内容を総合的に勘案して評価する。</p>		<p>【参考文献】</p> <p>追って指示する。</p>		
<p>【教科書】</p> <p>福別正晴編著、『ホンダの米国現地経営』、文真堂、1998年、3千円</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
プログラミング論A	01	後 期	2単位	岡 本 英 嗣
	02	後 期	2単位	
[講義概要・学習目標]		[講義計画]		
<p>プログラム言語としてBASICを使用する。最初はwindowsを使ってワープロ的な使い方に慣れ親しんでもらい、学生の理解度をみて徐々にBASICに入っていく。最初、講義をしてそれを確認するために演習をするという方法をとる。教室は指示のない限りコンピュータの演習室を使う。教科書は使わず毎回プリントを配布し、それにしたがって進めていく。丁寧に説明するつもりである。</p> <p><学習目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. コンピュータに慣れ親しんでもらう。 2. BASICプログラムの基本を理解し、他の言語への応用力を身につける。 		<ol style="list-style-type: none"> 1. コンピュータに慣れ親しむ……ワープロ的・電卓的使用など。 2. 単純なプログラム……変数（数値・文字変数）の利用など。 3. フローチャートとアルゴリズム……初歩のプログラミング思考。 4. やや複雑なプログラム……条件分岐・繰り返しプログラムなど。 5. 複雑なプログラム……配列・表計算・検索・並べ替えなど。 <p>その他学生の上達度により多少異なることがある。</p>		
[成績評価の方法]		[参考文献]		
出席状況と提出物で評価する。		大島永生『文系のBASIC入門』岩波書店 1991年。 海老沢信一・太田信宏『BASICで学ぶフローチャート技法』啓学出版 1989年。		
[教科書]				
プリントを配布し、教科書は特に使わない。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
プログラミング論A	03	後 期	2単位	私 金 ジソギョ 珍 奎
	04	後 期	2単位	
	05	後 期	2単位	
[講義概要・学習目標]		[講義計画]		
<p>パソコンに関する基礎的知識の復習とVISUAL BASICを用いた初歩的なプログラミングによるALGORITHMの習得を目指す。</p>		<p>ガイダンス コマンドボタンとプリント文 算術演算 キーボードからのデータの受け取り 判断分岐（その1） 判断分岐（その2） 繰り返し処理（その1） 繰り返し処理（その2） テキストボックスへの出力 テキストボックスからの入力 タイマーの利用</p>		
[成績評価の方法]		[参考文献]		
出席、レポート、試験の総合評価				
[教科書]		特に指定しないが、適宜市販の参考書を利用すること。		
開講時に指定する。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
プログラミング論A	06 07	後 期 後 期	2単位 2単位	植 木 泰 博
[講義概要・学習目標] 1. 講義概要 ソフトウェア概要：基本ソフトウェアの概要、コンピュータ上でのソフトウェア実行の仕組みなど コンピュータ上でのソフトウェアの実際：BASIC言語を用いたプログラミングを中心に処理の考え方、処理の方法グラフィックなどの解説 2. 学習目標 ①プログラミングの記述、命令の解説。 ②グラフィック作成で絵を書く処理を通して、プログラミングの作成方法を理解する。 ③実習で目的（要求）と実現方法、プログラム開発の一連の作業を行う。 注意：プログラム作成、レポート提出などパーソナルコンピュータを利用するので、ワープロ（一太郎、Word）を利用できることが必要条件である。	[講義計画] <後期> 1. ソフトウェアの概略 ソフトウェア実行の仕組み、利用アプリケーションの説明 2. BASIC言語 文法、書式解説、例題による命令の理解 グラフィック、グラフィック命令 実習 最終レポート（操作説明書作成）			
[成績評価の方法] コンピュータを利用した実習が中心 1. 出席 2. レポート提出（宿題） 3. 最終レポート提出	[参考文献] 「N88-日本語BASICリファレンスマニュアル」（日本電気）			
[教科書] プリント配布				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
プログラミング論A	08 09	後 期 後 期	2単位 2単位	島 田 文 彦
[講義概要・学習目標] 近年では、コンピュータ及びソフトウェアの機能は向上し、ほとんどの情報処理は既存の物で可能となっている。これらソフトウェアの多くは「プログラミング言語」を用いて作成されている。処理をコンピュータに行わせたい時、プログラミング言語の知識と、元の問題をプログラムに変換する技術が有れば、個人でもその処理を行うソフトを作成する事が可能となる。 また、問題のモデルを構築して構造を理解し、そこからアルゴリズムを生み出す、と言う一連の流れを掴むことは、プログラミング以外の実際の問題に取り組み際にも必要である。 本講義では、プログラム言語としてVisual Basicを使用し、簡単なプログラムの作成を通じて問題を解決する方法、及びそれをアルゴリズムにする方法を身につけることを目標とする。	[講義計画] コンピュータの基礎知識 プログラミングの基礎知識 プログラミング言語、フローチャート、プログラムの構造 プログラミング基礎演習 BASIC言語による簡単な数値計算、グラフィック処理 プログラミング実践演習 簡単なシステムの構築 以上のテーマについて数時間ずつの講義・実習を行う。			
[成績評価の方法] 講義時の課題、レポート、出席により評価する。	[参考文献] 桃山学院大学計算機センター（編） 『桃山学院大学計算機センターユーザーズガイド』			
[教科書] 無し				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
プログラミング論B	03 04 05	前 期 前 期 前 期	2単位 2単位 2単位	弘 津 金 ギョ 珍 奎
[講義概要・学習目標] OSやキーボード操作などパソコンに関する基礎的な知識と、 ワープロ（Word）と表計算（Excel）の基本的な操作を習得し 簡単な報告書作成を目指す。	[講義計画] パソコンの概要（キーボード操作など） Word 文書の編集 罫線 オブジェクトの利用 文書の印刷 Excel 効率の良い表の作成 数式と関数 グラフ機能			
[成績評価の方法] 出席、レポート、試験の総合評価	[参考文献] 「できる Word」インプレス 「できる Excel」インプレス			
[教科書] Microsoft Word セミナーテキスト初級編 Microsoft Excel セミナーテキスト初級編 (Microsoft Press)				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
プログラミング論B	06 07	前 期 前 期	2単位 2単位	植 木 泰 博
[講義概要・学習目標] 1. 講義概要 コンピュータの概要：コンピュータの仕組み、各部の名称と役割、キーボード操作の解説と練習。 Windowsを利用したマルチメディア文章の作成。 コンピュータの利用：アプリケーションソフトウェアの利用（ワープロ、表計算）と表現方法（情報加工方法）の習得、電子メールと図書館書籍検索システム利用方法解説。インターネットの利用。 2. 学習目標 一般的なコンピュータ用語の理解と操作方法の理解。 目的の情報を文書化し、データの表現方法の理解。 コンピュータを自分の表現ツールとして利用できるマルチメディア文章の作成を可能にする。	[講義計画] <前期> 1. コンピュータの概要 コンピュータの仕組み 各部の名称と役割 キーボード操作の解説と練習、OSの仕組み 2. ワープロ(Word)操作方法解説 文書入力編集、罫線など 3. 表計算(Excel) データ入力編集、グラフ 4. マルチメディア文書の作成 Windows間のワープロを利用した表計算のグラフの貼り付け インターネット上のデータの利用 5. 電子メール、図書館検索システムの利用方法解説 6. 最終レポート作成			
[成績評価の方法] コンピュータを利用した実習が中心 1. 出席 2. レポート提出(宿題) 3. 最終レポート提出	[参考文献]			
[教科書] プリント配布				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
プログラミング論B	08 09	前 期 前 期	2単位 2単位	島 田 文 彦
[講義概要・学習目標] 近年、コンピュータは「読み (=情報の取得)」「書き (=情報の作成)」「そろばん (=情報の加工)」の為の道具としてだけでなく、コミュニケーションの手段としての働きにも注目が集められている。これにより、コンピュータは情報に関わる際の手段としてより大きな役割を持つようになってきている。 また、現在ではコンピュータの機能は多様化・高度化し、得られる情報も大型・複雑化してきた。しかし、それに伴って、機能や情報に振り回される危険性も出てきたため、目的に合わせて機能を使いこなす必要が出てきた。 本講義では、情報の取得、加工、発信を中心とした主なアプリケーション群の使い方を学ぶことと、その知識を用いてコンピュータ、及びアプリケーションの基本構造を理解し、本講義では触れない他のアプリケーションについてもその道具としての使い方を直感的に理解し、十分その機能を使いこなせるような力を付けることを目的とする。	[講義計画] ・コンピュータの概要と操作方法 : 共通した操作方法の理解 ・文書の作成 : ワードプロを用いた文書の作成と修飾 ・情報の加工 : 表計算ソフトを用いた情報の加工 ・コミュニケーション : 電子メールソフトによる情報の伝達 ・情報の取得と検索 : インターネットの利用 以上のテーマについて数時間ずつの講義・実習を行い、最終的にはそれらを統合した演習を行う。			
[成績評価の方法] 講義時の課題、レポート、出席により評価する。	[参考文献] 桃山学院大学計算機センター (編) 『桃山学院大学計算機センターユーザーズガイド』			
[教科書] 無し				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
プログラミング論B	10	前 期	2単位	寺川 佳代子
[講義概要・学習目標] コンピュータ利用の初心者を対象に入門的講義を行う。 アプリケーションソフトウェア (ワードプロ・表計算他) の習得と円滑なキーボード操作 (タッチタイピング) の習得を学習目標とする。	[講義計画] キーボード入力 Windows 基本操作 学内メール インターネット 図書館蔵書検索 ワードプロ 表計算 プレゼンテーション			
[成績評価の方法] 出席・課題提出・実技テスト	[参考文献] 桃山学院大学計算機センター 「ユーザーズガイド」			
[教科書] ナツメ社 ステップ図解 EXCEL 97 基本編				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
プログラミング論B	1 1 1 2 1 3	後 期 前 期 後 期	2 単位 2 単位 2 単位	寺川 佳代子
[講義概要・学習目標] コンピュータ利用の初心者を対象に入門的講義を行う。 アプリケーションソフトウェア（ワープロ・表計算他）の習得と円滑なキーボード操作（タッチタイピング）の習得を学習目標とする。	[講義計画] キーボード入力 Windows 基本操作 学内メール インターネット 図書館蔵書検索 ワープロ 表計算 プレゼンテーション			
[成績評価の方法] 出席・課題提出・実技テスト	[参考文献] 桃山学院大学計算機センター 「ユーザーズガイド」			
[教科書] ナツメ社 ステップ図解 EXCEL 97				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
プログラミング論B	1 4 1 5	前 期 後 期	2 単位 2 単位	三 木 大 史
[講義概要・学習目標] コンピュータの基本的な活用能力を、様々なコンピュータの操作体験によって獲得することを学習目標とする。特定のアプリケーションソフトウェアの操作能力を身につけるにとどまらず、コンピュータに対する概念的な理解を深め、必要に応じて適切なコンピュータの活用ができる能力獲得を目指す。 学内電子メールを授業中の様々な場面で可能な限り使用する。このことを通じて、コミュニケーションのツールとしてのコンピュータおよび電子ネットワークの特質を体験的に理解し、併せて、情報化社会のマナーを涵養する。 受講にあたって、予備知識やコンピュータ操作の経験は不要であるが、受け身の受講態度ではなく、積極的・能動的な学習態度が望まれる。電子メールの利用や少人数クラス編成を生かし、教員と学生間での情報の双方向性を高め、わかりやすい授業を目指す。	[講義計画] (1) コンピュータシステムの概要、マウスの使い方、Window の扱い方 (2) Windows95 の基本、フロッピーディスクの初期化とバックアップ、ファイルとフォルダ、タイピングの基本 (3) エディタ、日本語入力、文字の編集（カットアンドペースト・コピーアンドペースト、検索・置換） (4) ヘルプファイル、学内電子メールの送受信、メールのヘッダ、メールのテンプレートの活用、メールへのファイル添付と展開、ネットワーク (5) ワードプロセッサのレイアウト機能（文字・段落の書式、スタイル、改組、ヘッダー・フッター） (6) 表の作成と罫線、ビジネス文書作成方法、プレゼンテーションソフトウェアの利用、図形描画 (7) 表計算ソフトウェアの基本（文字・数値・式・関数の入力と書式設定、式・関数のコピーと移動、罫線） (8) 表計算ソフトウェアによるグラフ作成、データベース機能、簡単なシミュレーション (9) WWW による資料の検索、データの取り込みと再利用、ワードプロセッサのアウトライン機能（文書の構造化）、論文スタイル文書の作成方法 (10) クリップボードを介したアプリケーションソフトウェア間のデータ交換、オブジェクトの貼り付けとリンク、ファイルとアプリケーションソフトウェアとの関連 (11) 総合課題作成			
[成績評価の方法] 出席を重視し、適宜、課題の提出を求める。 試験に代えて最後に総合課題を出し、そのレポートの提出を求める。 最後のレポートに、平常の課題・出席率・受講の積極性を加味して評価する。	[参考文献] 桃山学院大学計算機センター『ユーザーズガイド』 高橋三雄（著）『コンピュータ・リテラシ for Windows』（サイエンス社）			
[教科書] 安達一寿他（著）『インターネット時代の情報処理テキスト』（樹村房）				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者		
プログラミング論 C	01	通 期	4単位	小 池 俊 隆		
<p>[講義概要・学習目標] 事務処理分野でもっとも広く用いられているコンパイラ言語であるCOBOLについて学ぶ。COBOL言語は、FORTRANやBASICとは考え方の違ったプログラミング言語である。レコードやファイルといった概念が、他の言語にくらべて、より明確に規定されている。 この講義では、COBOLの文法の基本部分を解説する。いくつかのプログラム例を通じて、COBOLプログラムの様式、作成方法、考え方を学び、プログラムを解読できるようになること、プログラムを自分で作成できるようになることを目標とする。 プログラミングの学習は、実際に操作することによって理解がより深まるので、講義による説明と実習とを交えながら進めていく。このような内容であるから、毎時間出席していないと内容が理解できず、次に進めなくなるから注意すること。</p>	<p>[講義計画]</p> <table> <tr> <td> <p>(前期) COBOLプログラミングの文法 ・四則演算、入出力の方法 ・画面表示の方法 ・キーボードからの入力 ・入力領域の考え方 ・出力領域の考え方 ・作業領域の考え方 COBOLプログラムの実行 (課題) 簡単な入力のプログラム 簡単な出力のプログラム</p> </td> <td> <p>(後期) COBOLプログラミングの文法 ・データの転記 ・データの編集 ・ファイルによる入力 ・ファイルへの出力 COBOLプログラムの実行 (課題) 単純な集計プログラム 高度な集計プログラム ファイル処理を行うプログラム</p> </td> </tr> </table>				<p>(前期) COBOLプログラミングの文法 ・四則演算、入出力の方法 ・画面表示の方法 ・キーボードからの入力 ・入力領域の考え方 ・出力領域の考え方 ・作業領域の考え方 COBOLプログラムの実行 (課題) 簡単な入力のプログラム 簡単な出力のプログラム</p>	<p>(後期) COBOLプログラミングの文法 ・データの転記 ・データの編集 ・ファイルによる入力 ・ファイルへの出力 COBOLプログラムの実行 (課題) 単純な集計プログラム 高度な集計プログラム ファイル処理を行うプログラム</p>
<p>(前期) COBOLプログラミングの文法 ・四則演算、入出力の方法 ・画面表示の方法 ・キーボードからの入力 ・入力領域の考え方 ・出力領域の考え方 ・作業領域の考え方 COBOLプログラムの実行 (課題) 簡単な入力のプログラム 簡単な出力のプログラム</p>	<p>(後期) COBOLプログラミングの文法 ・データの転記 ・データの編集 ・ファイルによる入力 ・ファイルへの出力 COBOLプログラムの実行 (課題) 単純な集計プログラム 高度な集計プログラム ファイル処理を行うプログラム</p>					
<p>[成績評価の方法] 実習を交え、それを重視するので出席を重要視する。実施数の2/3以上の出席を単位認定の必要条件とする(満たさない場合は単位認定できない)。出席状況と、与えられた課題の提出状況、内容により成績を評価する。</p>	<p>[参考文献] 必要があれば指示する。</p>					
<p>[教科書] 海老沢信一・堀 恵子(共著)『パソコンで学ぶCOBOL構造化プログラミング』(工学図書)</p>						

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者		
プログラミング論C	02 03	通 期 通 期	4単位 4単位	竹 内 昭 浩		
<p>[講義概要・学習目標] ワークステーションの標準的OS(オペレーティング・システム)であるUNIXの入門とFORTRANおよびC言語とを用いて、プログラミングの基礎を学習する。</p>	<p>[講義計画]</p> <table> <tr> <td> <p>(前期) 1. UNIX入門 2. viエディタ入門 3. FORTRANでの簡単なプログラム 4. if文 5. do文 6. 配列</p> </td> <td> <p>(後期) 7. ファイルの操作 8. 副プログラム 9. C言語での簡単なプログラム 10. 変数と算術 11. for文とwhile文 12. 関数</p> </td> </tr> </table>				<p>(前期) 1. UNIX入門 2. viエディタ入門 3. FORTRANでの簡単なプログラム 4. if文 5. do文 6. 配列</p>	<p>(後期) 7. ファイルの操作 8. 副プログラム 9. C言語での簡単なプログラム 10. 変数と算術 11. for文とwhile文 12. 関数</p>
<p>(前期) 1. UNIX入門 2. viエディタ入門 3. FORTRANでの簡単なプログラム 4. if文 5. do文 6. 配列</p>	<p>(後期) 7. ファイルの操作 8. 副プログラム 9. C言語での簡単なプログラム 10. 変数と算術 11. for文とwhile文 12. 関数</p>					
<p>[成績評価の方法] 試験の結果と、提出してもらったレポートを加味して評価する。</p>	<p>[参考文献] 坂本 文(著)「たのしいUNIX」(アスキー出版) 浦 昭三(著)「FORTRAN 77入門」(培風館) カーニル・リッチー(著)「プログラミング言語C 第2版」(共立出版)</p>					
<p>[教科書] 特に指定しない。</p>						

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
プログラミング論D		通 期	4 単位	三 木 大 史
<p>〔講義概要・学習目標〕</p> <p>Windows 上でのアプリケーションプログラムを実際に作成する事によって、Windows プログラミングの特徴である、イベント駆動型（マウスを動かして、クリックしたり、ドラッグしたり、キーボードから入力があったりするたびに処理が行われるプログラムの型）のビジュアルプログラミング（ユーザーとコンピュータとのやりとりのために、画面に様々なボックスや画像のレイアウトを決めていくこと）を体得するとともに、オブジェクト指向の考え方を理解することを目的とする。併せて、プログラミングの基本とユーザーインターフェース作成の実験を学ぶことによって、コンピュータに対する本質的な理解を深める。</p> <p>プログラミングの統合開発環境として Delphi を使用する。これは、もともとは教育用に開発された Pascal というプログラミング言語を採用してあってプログラミングの作法を学ぶのに最適であり、また、Windows プログラミングに対する数々の優れた特徴を持つ。</p> <p>受講にあたって、前提とするプログラミングに関する知識は特に必要なく、「プログラミング論A」を受講したかどうかは問わないが、「プログラミング論B」を受講していることが望ましい。受け身の受講態度ではなく、積極的・能動的な学習態度が望まれる。</p>		<p>〔講義計画〕</p> <p>(1) Delphi の統合開発環境の概要 (2) エディットを用いて、数値と文字の加算をするアプリケーションソフトウェアの作成 (3) チェックボックスとラジオボタン (if 文) (4) リストボックスとコンボボックス (for 文, while 文) (5) 簡単な集計表のアプリケーションソフトウェアの作成 (6) エラーへの対処 (7) ダイアログボックスとメッセージボックス (8) メニュー、スピードボタンの作成、時刻・日付の表示 (9) オープンダイアログとセーブダイアログ (10) 簡単なエディター（テキストファイルを開き、または新規作成して編集でき、そのファイルに名前を付けて保存、または上書き保存できる）の作成 (11) 総合課題作成</p>		
<p>〔成績評価の方法〕</p> <p>出席を重視し、適宜、課題の提出を求める。 試験に代えて最後に総合課題を出し、そのレポートの提出を求める。 最後のレポートに、平常の課題・出席率・受講の積極性を加味して評価する。</p>		<p>〔参考文献〕</p> <p>村上寛寛（著）『やさしい Delphi』（日刊工業新聞社） ダンテマン他（著）『Delphi プログラミング大全』（翔泳社） オシア他（著）『Delphi プログラミング入門』（プレジデンスホール）</p>		
<p>〔教科書〕</p> <p>藤本老（著）『Delphi でつくる Windows プログラム』（サイエンス社）</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
システム設計		通 期	4 単位	牧 野 丹 奈 子
<p>〔講義概要・学習目標〕</p> <p>企業を情報システムとしてみたとき、経営組織における情報入力、情報伝達、情報蓄積、情報分析、情報出力のありかたを考えデザインすることが、広義のシステム設計である。</p> <p>コンピュータシステムだけに着目したシステム設計は成功しない。コンピュータシステムと人間との関係や、人間同士の情報のやりとりのあり方などを考慮しなければ、企業経営にとって役に立つ情報システムを設計することはできないからである。</p> <p>この講義では、前期に経営や組織の基礎知識をふまえながら、システム設計に役立つシステム論を中心に勉強し、後期に経営組織の情報化の実態を分析し、続いてコンピュータシステムの設計について勉強する。</p> <p>なお、コンピュータシステムのモデリング手法やシステム思考は、日常生活においても多くの場面で役立つことであろう。</p>		<p>〔講義計画〕</p> <p><前期>（システム設計の基礎知識）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. システムの基礎知識 2. 情報システムの基礎知識 3. 経営情報システムの基礎知識 4. 情報化・コンピュータシステム・組織 <p><後期>（情報化の実態と開発過程・モデリング手法）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 日本企業の情報化の実態 2. システムライフサイクル 3. DFD 4. DD 5. CFD 6. STD 7. ERD 		
<p>〔成績評価の方法〕</p> <p>試験とレポートなどの総合評価によっておこなう。</p>		<p>〔参考文献〕</p> <p>前期は多岐にわたるので、プリントで各章ごとの参考文献を紹介する。</p> <p>後期は以下のとおり。</p> <p>酒井博敬（著）「経営情報管理の技法」（オーム社、1987年） 堀内一（著）「データ中心設計」（オーム社、1988年） 河村一樹（著）「ソフトウェア工学入門」（啓学出版、1987年） 有沢誠（著）「ソフトウェア工学」（岩波書店、1988年） 「第二種共通テキスト」シリーズ（（財）日本情報処理開発協会、1994年）</p>		
<p>〔教科書〕</p> <p>プリントを配布する</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
データベース論 (旧 経営情報学特講一データベース論)		通 期	4 単位	長坂悦敬
[講義概要・学習目標] <p>本講座では、リレーショナル・データベースの基礎から応用までをじっくりと学習する。ソフトウェアはAccessを用いる。最終目標は、リレーショナル・データベースを理解し、画面・帳表の設計と簡単な応用プログラム（マクロ・VBA）の作成ができるようになることである。</p> <p>実習が中心となるが、それを補完するために次の講義を行う。</p> <p>①データモデルの基礎 ②リレーショナル・データベースの概念 ③データベースの設計 ④企業の活用事例</p> <p>受講に際しては、以下を注意のこと。</p> <p>①パソコン実習室を常時利用するため、35人限定である。 事前申し込みが必要である。申し込みが許可されないと受講できない。 ②少なくとも、パソコンの基礎操作について習得済であることが望ましい。</p>	[講義計画] <p>【前期】 ①情報資源管理の意義 ②データモデルの基礎 ③リレーショナル・データベースの概要 ④リレーショナル・データベースの操作 ⑤リレーショナル・データベースの設計</p> <p>【後期】 ⑥DOAアプローチ ⑦CASEツール ⑧アプリケーション設計 ⑨アプリケーション作成</p>			
[成績評価の方法] <p>レポート2回。出席状況。</p>	[参考文献] <p>(1) 堀内一 『データ中心システム設計』オーム社 (2) IRM研究会 『情報資源管理ハンドブック』小学館 (3) 電子開発学園 『データモデリング』, SCC</p>			
[教科書] <p>小川晃夫訳『ACCESS 97 オフィシャルコースウェア』アスキー出版</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経営工学		通 期	4 単位	明 石 吉 三
[講義概要・学習目標] <p>経営工学とは経営問題に対する科学的、数学的アプローチをいう。この分野は英国、米国を中心に生まれ、オペレーションズリサーチ、経営科学の名称で呼ばれている。</p> <p>本分野は方法論、手法、分野別の理論と広範囲である。本講座では文科系学生諸君を前提に、経営工学アプローチの意義、手法、モデル化法を講義する。なお、高度な数学的知識は必要としない。具体的内容は、次の通りである。</p> <p>(1) 経営工学とは (2) 数理計画法 a. 線形計画法 b. 非線形計画法 c. PERT系手法 (3) 意思決定論 (4) 待ち行列論</p>	[講義計画] <p>前期 (1) 及び (2) 後期 (3) 及び (4)</p>			
[成績評価の方法] <p>レポート及び試験による総合評価</p>	[参考文献] <p>別途指示する</p>			
[教科書]				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
オペレーションズ・リサーチ		通 期	4 単位	太 田 雅 晴
<p>[講義概要・学習目標] 辞典によれば、オペレーションズ・リサーチとは、『システム運用上の問題に、数学的・科学的方法を適用し、最適の選択を発見する技法。経営、軍事での意思決定や、作戦計画などに利用』とあり、ORと略して呼称される。軍というぶっそうな言葉がこの定義の中にはあるが、要はいろいろな仕事をする上で、費用においてもスピードにおいても最適なやり方を、科学的に明らかにしようとするのがこの科目を勉強する意味である。近年では、発見された最適な方法をコンピュータプログラムにして利用することで我々の生活を豊かにしてくれている。例えば、車に搭載されたナビゲーションシステムで最短のルートドライバーに示してくれたり、最も利益が上がるようにコンピュータが自動的に株の売買をしてくれたり、コンビニエンスストアでお客様が満足がいくようにまた店舗の運営費用が安くなるように商品の発注を自動的に行ってくれたりするのはその例である。本講では、事例を用いながらORの基礎的理論を勉強する。特に、情報処理関連試験を受けようとする人達にとっては重要な科目であるとともに、将来、プランニングに関わろうとする人達にとっても学習することで得た知見は役に立つであろう事を保証する。</p>		<p>[講義計画] 左記学習内容の講義を行うが、具体的には下記の課題について事例を踏まえながら講義を進める予定である。</p> <p>1. <u>最適な量を計画する。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 最適な生産量を計画する 最も売上が上がるようにマーケティング予算を媒体に割り振る 品切れがおこらずかつ店舗運営費用が安いように商品の在庫を計画する <p>2. <u>最適な組み合わせを発見する。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 最も速くいくルートの発見 最も適切な人員の配置計画の発見 最も利益の上がる生産・販売すべき製品種の発見 <p>3. <u>組織やグループのコミュニケーションを分析する。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> グラフ理論の基礎 組織のまとめり、閥、リストラ 消費者の行動パターン 		
<p>[成績評価の方法] 講義中に行う課題と期末試験で総合的に評価する。</p>		<p>[参考文献] 必要に応じて講義中に指示する。</p>		
<p>[教科書] 無し</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経営分析		通 期	4 単位	堀 友 章
<p>[講義概要・学習目標] 損益計算書・貸借対照表などの財務諸表を中心とする会計情報の見方や分析の仕方、分析結果の解釈について学習します。詳しくは、企業の会計情報を分析して、収益性、流動性、安定性、生産性、分配性、成長性などの良否を観察批判し、企業の内外の利害関係者による意思決定に有益な判断資料を与えるための技法を学びます。</p>		<p>[講義計画] (前期) ① 経営分析の意義と方法 ② 財務諸表（貸借対照表、損益計算書、製造原価報告書等）の構造 ③ 収益性分析（資本利益率、売上高利益率、資本回転率等） ④ 流動性分析（流動比率、当座比率、固定比率、負債比率等） ⑤ 安定性分析（資産・資本構成比率、財務レバレッジ等）</p> <p>(後期) ⑥ 付加価値と生産性分析 ⑦ 利益増減分析 ⑧ 損益分岐点分析 ⑨ 資金運用表によるファンド・フロー分析 ⑩ 資金収支表によるキャッシュ・フロー分析 ⑪ 連結財務諸表の作成と分析</p>		
<p>[成績評価の方法] 経営分析は技術的側面が強いため、各章ごとに計算演習のレポート提出を求めます。学年末テストとレポートの成績によって評価します。</p>		<p>[参考文献] 渋谷武夫（著）『経営分析の考え方・すすめ方』（中央経済社） 板井久勝（著）『財務諸表分析』（中央経済社） 倉田三郎他（共著）『入門経営分析』（同文館） 藤井則彦（著）『財務管理と会計』（中央経済社） 森田松太郎（著）『経営分析入門』（日本経済新聞社）</p>		
<p>[教科書] 毎週、「講義概要と分析事例」を記載したプリントを配布します。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
管理会計論		通 期	4 単位	清水 信匡
<p>[講義概要]</p> <p>企業は様々な経営管理の手段を有しているが、その中核に計画とコントロールシステムがある。計画とコントロールのかなり部分は、管理会計が担当することが多い。したがって、本講義では、まず経営管理活動における計画とコントロールの意義を説明する。次に、計画とコントロールがどのように管理会計技法によって遂行されているのかを説明する。</p> <p>[学習目標]</p> <p>①計画とコントロールの理解 ②管理会計の主要な技法の理解</p>		<p>[講義計画]</p> <p>前期</p> <p>1 経営管理における管理会計 2 計画とコントロール 2 標準原価による原価統制 3 短期利益計画 4 予算管理</p> <p>後期</p> <p>1 事業部制会計 2 設備投資決定、 3 原価企画 4 活動基準原価による原価管理</p>		
<p>[成績評価の方法]</p> <p>試験の成績で基本的に評価する。</p>		[参考文献]		
<p>[教科書]</p> <p>溝口一雄編著『管理会計の基礎』中央経済社1987年</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
情報会計論		通 期	4単位	柴 健 次
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>本講義では、基本的に、会計行為を情報行為とみる観点から、会計情報の有用性について考察する。ここでは、経済システムのサブシステムである金融システムと会計システムが相互に関連し合う領域における会計問題を重点的に講義する。</p> <p>簿記・会計の基礎知識を有するものに対して、より深い内容を講義する。その目的は、会計的な見方、考え方を十分に身につけることに置かれる。</p>		<p>[講義計画]</p> <p>1 金融環境とわが国会計制度 2 金融取引の勘定による表現 3 債権者保護の決算制度 4 投資者保護とディスクロージャー 5 相場変動下の貨幣評価 6 換算と評価による計算による理解 7 国際経営と為替変動の会計問題 8 金融主導経済下における企業会計</p> <p>その他、必要に応じて時事問題を解説する。</p>		
<p>[成績評価の方法]</p> <p>原則として学年末試験によるが、レポート等の平常点を加味する。</p>		[参考文献]		
<p>[教科書]</p> <p>柴 健次『テキスト金融情報会計(仮)』中央経済社、1999年。 (書名は仮題です。発行時に変更される可能性があります。)</p>		<p>ディスクロージャー研究会編『現代ディスクロージャー論』中央経済社、1999年。 桜井久勝・須田一幸『財務会計・入門』有斐閣、1998年。 松尾聿正・柴健次編『日本企業の会計実態』白桃書房、1999年。 吉田寛・柴健次『グローバル経営会計論』税務経理協会、1997年。</p>		

《インテグレーション科目》

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 チ ー プ
経営情報学特講（マルチメディア経営）		9月集中	2単位	井上 義祐
<p>〔講義概要・学習目標〕 近年、電機通信技術の発展は目覚ましく、コンピュータと通信が融合したインターネットに代表されるマルチメディア社会が加速度的に進展しつつある。 この講義では、日本電信電話株式会社の関西支社副社長の柏尾敬秀氏、古谷修一SIサポート部長、玉村知史地域開発推進部担当部長、という大変恵まれた講師陣によって、マルチメディアや通信ネットワーク棟について、文系学生対象に分かり易く論じていただく。 また、マルチメディアを実感するために、最新の施設見学も行う。</p>	<p>〔講義計画〕 1. オリエンテーション 2. 通信ネットワークの基礎（制度、サービス、マルチメディアの具体例など） 3. 電機通信の基礎 4. 最新の施設見学 などを中心に、9月に集中して14コマを実施する予定である。 レポート提出と、試験を行う。</p>			
<p>〔成績評価の方法〕 出席11コマ以上出席前提とし、レポートやテストなどで総合的に評価する。</p>	<p>〔参考文献〕 講義のなかや前に配布する。</p>			
<p>〔教科書〕 講義のなかや前に配布する。</p>				

《インテグレーション科目》

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 チ ー プ
経営情報学特講（情報化社会と情報技術）		9月集中	2単位	明石 吉三
<p>〔講義概要・学習目標〕 情報技術の進歩は著しい。その典型が、パソコンの爆発的普及とインターネットであろう。このような情報技術をベースした情報化社会では、従来にはみられない新たな可能性と問題点を抱えているともいえる。本講座では、情報化社会を支える情報技術の現状と今後の展開方向を、それぞれの専門分野で活躍する第一線の研究者、事業推進者により、講義をしていただく。</p>	<p>〔講義計画〕 1. オリエンテーション 2. 情報産業の動向 3. 情報システム化の動向 4. ソフトウェア技術の動向 ・分散ソフトウェア技術 ・データベース技術 ・知識処理技術 5. 情報通信技術の動向 ・インターネット技術 ・モバイルコンピューティング技術 ・衛星通信技術 など 6. 情報機器 ハンディキャップ向け情報機器の動向</p>			
<p>〔成績評価の方法〕 出席を重視（時間厳守）し、レポートの総合評価</p>	<p>〔参考文献〕</p>			
<p>〔教科書〕 未定</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
簿記Ⅱ		通 期	4 単位	中 田 信 正
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>(講義概要) 簿記Ⅱでは、簿記Ⅰの履修を終えた学生に対し、中級程度の工業簿記と商業簿記の講義を行う。工業簿記においては製造業の簿記を学習し、材料費、労務費、経費、製造間接費の配賦、部門別計算、個別原価計算、総合原価計算等を取り扱う。商業簿記においては、勘定科目と仕訳、会社会計、決算、支店会計等を学ぶ。簿記の学習には、計算方法や簿記的な考え方に慣れることが必要であるため、計算練習を重視する。</p> <p>(学習目標) ① 商工会議所簿記検定試験（6月、11月）2級に受験できるよう、中級程度の工業簿記・商業簿記の計算能力を身につける。 ② 財務諸表論、原価計算の学習のための、基礎知識を学習する。 ③ 公認会計士・税理士等々の資格試験受験の出発点として必要な簿記能力を習得する。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>(前期) 工業簿記 ① 工業簿記の構造 ② 材料費・労務費・経費 ③ 製造間接費・部門費 ④ 個別原価計算 ⑤ 標準原価計算 ⑥ 直接原価計算 ⑦ 工場会計の独立</p> <p>(後期) 商業簿記 ⑧ 現金預金 ⑨ 有価証券 ⑩ 手形取引 ⑪ 特殊商品売買取引 ⑫ 決算・財務諸表の作成 ⑬ 株式会社会計 ⑭ 支店会計 ⑮ 帳簿組織・伝票式会計</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>前期試験と学年末試験の成績により、総合評価を行う。なお、本年度中に日本商工会議所簿記検定 2級に合格した場合、合格証書のコピーを提出すれば、成績評価を1ランク上げることとする。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>中田信正 他(共著)『現代簿記論』(中央経済社) 村田簿記学校(編)『日商簿記検定 2級実戦模擬試験問題集』(中央経済社) 宇南山英夫 他(編)『日商簿記検定 2級問題と解答・解説』(中央経済社) 井上達雄・染谷恭次郎(編著)『新簿記検定 2級商業簿記』(税務経理協会) 井上達雄・染谷恭次郎(編著)『新簿記検定 2級工業簿記』(税務経理協会)</p>			
<p>[教科書]</p> <p>井上達雄・染谷恭次郎(編著)『検定簿記講義 2級商業簿記』(中央経済社) 番場嘉一郎・岡本 清(編著)『検定簿記講義 2級工業簿記』(中央経済社) 井上達雄・染谷恭次郎(編著)『検定簿記ワークブック 2級商業簿記』(中央経済社) 番場嘉一郎・岡本 清(編著)『検定簿記ワークブック 2級工業簿記』(中央経済社)</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
原価計算論		通 期	4 単位	小 林 哲 夫
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>多品種小ロット生産、JITないしリーンな生産方式、FA化、グローバル化などに対応する現代経営を取り巻く原価計算の課題と動向を背景としながら、原価計算及びコスト・マネジメントについて講義を行います。</p> <p>製品原価計算の基礎的な概念や手続についても説明を行うが、原価企画、ライフサイクル・コスト、品質コストのマネジメントなど、トピカルな問題についてもできるだけ時間を割いて講義を進めていきたいと思っています。</p> <p>現代経営における原価計算及びコスト・マネジメントについての知識を身につけることが学習の目標です。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>(前期) 主として、製品原価計算に関する基礎知識及び新しい原価計算のあり方に焦点を当てて講義を行います。</p> <p>(後期) 原価企画、ライフサイクル・コスト、品質コストのマネジメントなどを中心として現代経営が取り組んでいるコスト・マネジメントについて講義を行い、合わせて戦略的コスト・マネジメントの考え方に洞察を加えます。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>期末テスト</p>	<p>[参考文献]</p> <p>日本会計研究学会『原価企画研究の課題』(森山書店)</p>			
<p>[教科書]</p> <p>小林哲夫『原価計算：理論と計算例』(中央経済社) 小林哲夫『現代原価計算論：戦略的コスト・マネジメントへのアプローチ』(中央経済社)</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
税務会計		通 期	4 単位	中 田 信 正
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>(講義概要) 税務会計は、会計のうち、税法に関連する分野を扱うものである。主な内容は、法人税を中心にして、法人の課税所得金額を計算する仕組みや方法を学ぶことにある。講義においては、まず、納税主体である法人の意味や種類について述べ、所得計算の基本的な考え方を財務会計と関連させて説明する。ついで、益金および損金の各項目に関する税務上の処理にふれ、また、税額の計算方法について学ぶ。さらに、申告、更生・決定、不服申立てについても論じた。理解を深めるため、できるかぎり計算練習を行いたい。</p> <p>(学習目標) ①法人税法における課税所得金額と税額の算定方法の概要を、体系的に理解する。 ②税法上の所得金額と財務会計上の利益との関係および両者の相違を把握する。</p>		<p>[講義計画]</p> <p>① 法人税の納税主体 ② 各事業年度の所得金額の計算体系 ③ 売上に関する税務 ④ 棚卸資産評価と売上原価 ⑤ 固定資産と減価償却 ⑥ 特別償却 ⑦ 繰延資産の償却 ⑧ 役員報酬・賞与等</p> <p>⑨ 寄付金・交際費 ⑩ 租税公課 ⑪ 貸倒損失 ⑫ 受取配当金 ⑬ 引当金 ⑭ 圧縮記帳 ⑮ 欠損金の繰越・繰戻 ⑯ 税額の計算 ⑰ 申告・納付・更生・決定等 ⑱ 学年末試験のための答案練習</p>		
<p>[成績評価の方法]</p> <p>前期試験と学年末試験の成績によって評価する。試験は計算問題と論述問題を出題する。</p>		<p>[参考文献]</p> <p>井上久彌(著)『法人税の計算と理論』(税務研究会出版局) 国税庁法人税課長(監修)『私たちの法人税』(大蔵財務協会) 大蔵省主税局税制第一課監修『法人税法規集』(中央経済社) 大蔵省主税局税制第一課監修『法人税取扱通達集』(中央経済社)</p>		
<p>[教科書]</p> <p>中田信正(著)『税務会計要論(八訂版)』(同文館)</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
監査論		通 期	4 単位	バ ク テ ヨ ン 朴 大 栄
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>バブル経済の崩壊とともに、証券会社による損失補填の問題、銀行の不正融資など企業経営者による不正行為が社会的な関心事となっている。同時に、連続する大手企業の倒産、それにともなう企業公表情報への不信が経済社会に混乱を引き起こしている。このような状況のもと、監査に対する社会的関心も高まってきている。監査論は、企業の独断専行を抑え、一般社論との協調を計らせるための会計学、経営学等の応用論に属する。今年度の講義は、このような社会背景のもと、監査の基礎知識のみならず、現行の監査制度の問題点などにも触れていくことにする。本講義においては、企業と外部利害関係者とくに投資家との間に介在する証券取引法監査ないし会計監査を中心に、監査に関する基礎知識の理解を目的とする。</p>		<p>[講義計画]</p> <p>講義の順序を示す。</p> <p>第1章 監査とは 第2章 通説監査論の考え方 第3章 情報監査論の考え方 第4章 その他の監査論 第5章 監査の必要性 第6章 監査の限界と補強方法 第7章 監査の歴史的発展 第8章 監査目的と不正 第9章 監査基準の意義 第10章 監査人の資格と条件 第11章 監査人の正当注意 第12章 監査証拠 第13章 監査計画 第14章 内部統制と試査 第15章 監査報告書と適正性 第16章 監査意見 第17章 特記事項</p>		
<p>[成績評価の方法]</p> <p>定期試験の成績と出席状況を勘案して評価する。</p>		<p>[参考文献]</p> <p>鳥羽至英著 『監査基準の基礎 第2版』 白桃書房 高田正淳著 『最新監査論』 中央経済社 その他、講義中に適宜指示する。</p>		
<p>[教科書]</p> <p>加藤恭彦・友杉芳正・津田秀雄編著 『監査論講義』 中央経済社</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
国際会計論		通期	4単位	柴 理梨亜
[講義概要・学習目標] 国際化、グローバル化がますます進む現在の環境では当然、会計もその影響を受けている。日本でも国際会計基準が重要視されるようになり、日本の会計基準との調和化問題も大きな課題となっている。 本講義では国際会計基準、アメリカ式財務諸表や会計原則、連結財務書表や監査等について学び、多くの英語の会計専門用語を身につけ、英文財務諸表の内容を理解できるようになるのが目標である。 教科書は異なるが、昨年の会計学特講（英文簿記・財務諸表）と重複する内容が多いので、昨年の会計学特講の受講者は注意してください。	[講義計画] 1. 財務会計の国際的視点 2. 財務会計実務の多様性 3. 財務会計における多様性の調和化 4. 国際化が進んだ環境のもとでの財務報告 5. 世界の開示実務 6. 多国籍企業の連結財務諸表 7. 多国籍企業の外貨換算 8. 国際財務諸表分析 9. 多国籍企業における業績評価 10. 国際会計における新たな諸問題			
[成績評価の方法] 前期と後期のテストの結果と平常点を総合的に評価する。	[参考文献]			
[教科書] ミュラー、ガーノン、ミーク（著）野村健太郎、平松一夫監訳 「国際会計入門」第3版（中央経済社）				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
税法 (旧会計学特講一税法)		通 期	4 単位	中 田 信 正
[講義概要・学習目標] (講義概要) 税法のうち、身近な問題を対象に、個人の所得課税および資産課税を講義内容とする。まず、日本の税制を全般的に述べた後、所得税を取り上げる。利子所得、配当所得、給与所得等の課税所得を種類別に説明し、個人事業者に対する事業所得の計算方法および資産譲渡に課せられる譲渡所得についても論じた。ついで、相続財産に対して課せられる相続税を取り上げ、その計算構造および財産評価基準を検討し、関連して贈与税にもふれることにしたい。理解を深めるため、計算練習を重視する。 (学習目標) 所得税および相続税の基本的仕組みを、体系的に理解する。	[講義計画] I 日本の税制 10 山林所得 II 所得税法 11 一時所得 1 納税義務者 12 雑所得 2 所得の種類 13 事業所得 3 課税所得の種類 14 所得の総合課税と分離課税 4 利子所得 15 所得控除 5 配当所得 16 税額の計算 6 不動産所得 17 源泉徴収・年末調整 7 給与所得 III 相続税法 8 退職所得 1 課税財産・非課税財産 9 譲渡所得 2 相続税の計算構造 3 財産評価基準 4 贈与税の計算構造			
[成績評価の方法] 前期試験と学年末試験の成績によって評価する。試験は計算問題と論述問題を出题する。	[参考文献] 国税庁広報課長監修 『やさしい譲渡所得』（大蔵財務協会） 国税庁資産税課長監修 『やさしい相続税』（大蔵財務協会） 国税庁広報課長監修 『やさしい贈与税』（大蔵財務協会）			
[教科書] 国税庁所得税課長監修『平成10年度 私たちの所得税』（大蔵財務協会） 後半に使用する相続税については別途指示する。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
商業英語		通 期	4 単位	桜 井 勝 友
<p>【講義概要・学習目標】</p> <p>即戦力を期待する実社会のニーズに対応するため、実務に役立つ商業英語 (Business English) の基礎知識を習得する。貿易業務の流れに添って基礎的専門用語や英語表現をマスターし、状況に応じて自分の意向や意志を英文で伝えられるようにする。</p> <p>なお貿易の「実務知識」と「商業英語」(その英語による表現) は謂わば車の両輪の関係である。従って講義「貿易実務」の履修又は積極的自習をお願いする。</p>	<p>【講義計画】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 貿易業務の概論 (輸出を中心に全体像) 2. 取り引きの申し込み (引き合い・見積もり) 3. オファー、カウンター・オファー (条件折衝) 4. 契約締結関係 5. 金の移動関連 (信用状及び送金による決済を中心) 6. 物の移動関連 (船積み及び保険関連) 7. クレームとその解決関連 8. 個人輸入関連 			
<p>【成績評価の方法】</p> <p>前・後期期末試験成績、出欠状況、受講態度 (積極性)。 第54回「商業英語検定試験」Cクラス合格者は7/10評価する。 (11月23日、日本商工会議所主催)</p>	<p>【参考文献】</p> <p>【新】実用英語ハンドブック 加藤 正 主幹 (大修館書店) 「マンガ貿易入門」宮下 忠雄 著 (サンマーク出版)</p>			
<p>【教科書】</p> <p>【最新版】「商業英検C級からB級への合格の手引き」 芝池 美明・上田久雄 著 (啓文社)</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
外国書講読	11	通 期	4単位	梅本哲世
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>この講義は、英語の基本的な読解力の養成を基礎としつつ、現代の時事英語、特に経済関係の英語の読解力を高め、それを通じて世界経済・日本経済の諸問題について考えていくことを目標としている。</p> <p>教材として、ニュースウィーク・タイムなどの雑誌記事を主として利用する予定であるが、新聞・単行本などの興味深い記事や論文も適時取り上げて読んでいく。</p> <p>アップ・ツー・デートな英語に関心のある学生諸君の参加を歓迎する。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>英米の雑誌記事を中心に、世界経済・日本経済に関する英文を読む予定である。その時々話題になっているテーマについての記事を選んで一緒に読み、そのテーマについて深めていきたい。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>出席、授業時の発表、期末試験を総合して評価する。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>授業中に適時指示する。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>使用する教材を配布する。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
外国書講読	12	通 期	4単位	尾崎耕司
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>近年、日本史や日本文化論について、諸外国で紹介されるケースが多くなってきている。しかし、その内容がどのようなものかは、国内ではあまり知られていない。</p> <p>本講読では、その代表例ともいえる“THE CAMBRIDGE HISTORY OF JAPAN”をとりあげ、その内容を吟味したい。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>授業は、輪読形式で、報告者を決め、毎回テキストを2～2.5ページの割合で読み進めていく。</p> <p>テキストは、初回の授業の時に配布する。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>成績は、毎回の出席と、報告内容をもとに評価する。</p> <p>補欠から漏れたものに対しては、試験を課す場合もある。</p>	<p>[参考文献]</p>			
<p>[教科書]</p> <p>“THE CAMBRIDGE HISTORY OF JAPAN volume 6 The Twentieth Century” PETER DUSS (Edit.) CAMBRIDGE UNIVERSITY PRESS 1988</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
外国書講読	13	通 期	4 単位	カ 何 イ 為
【講義概要・学習目標】 中国語経済文献の講読により、中国語の読解力を高めるため、中国語経済に対する理解を深める効果を図る。	【講義計画】 通年講義で、100ページを読み、1学期50ページ程度、1講義あたり5-6ページ程度。			
【成績評価の方法】 平常点	【参考文献】 必要に応じて参考文献を指示する。			
【教科書】 使用なし。ただし講義の際に随時プリントを配布する。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
外国書講読	14	通 期	4 単位	敵 善 平
【講義概要・学習目標】 中国経済は急成長を続けている。こうした中国経済にかかわる制度面・体制面と実態面の変化についての中国語の基本文献を講読し、そのなかで中国語の経済論文や記事を読む能力を身に付けてもらうと同時に、中国経済の成長メカニズムについても理解して貰う。中国語そのものの学習は本講義の主題ではないが、講読を通して聞き取りや会話の能力も向上できるであろう。 なお、受講者については中国語Ⅰ、あるいはⅡの単位を修得済みの者が望ましい。	【講義計画】 講義のなかで、専門論文における文章の表現法や慣行用法などについて、解説を行い、毎回皆さんにも練習してもらう。			
【成績評価の方法】 平常点（出席状況と練習問題）と最終試験の成績に基づいて行う。	【参考文献】			
【教科書】 随時配布する。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
外国書講読	15	通 期	4 単位	滝 田 和 夫
【講義概要・学習目標】 アジア・ロシア・ラテンアメリカの経済危機や欧州通貨統合にみられるように世界経済は激動している。このクラスでは、第一に、このように激しく変化する世界経済のいくつかのトピックスに焦点をあてて、欧米の経済雑誌・新聞記事を読んでいきたい。同時に、単に経済の時論を追いかけることにとどまらず、経済学という学問のほのかな香りを味わうために、第二に、学術雑誌や著書に掲載される著名な経済学者のエッセーあるいは雑談をも読むこととした。したがって、年間を通して英文による経済記事やエッセーを何本か読んでいくことになるので、統一的なテキストは使用せず、その都度プリントを配布する。	【講義計画】 テキストは、その都度プリントで配布する。それを学生諸君がクラスで順番に翻訳していくという形式をとるので、必ず自宅で十分に予習しておく必要がある。			
【成績評価の方法】 出席状況、平常点、および年に数回おこなう小テストの総合評価。特に出席を最重視。	【参考文献】			
【教科書】 随時プリントを配布				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
外国書講読	16	通 期	4 単位	竹 原 憲 雄
【講義概要・学習目標】 Robert Cassenの“Does Aid Work”をテキストに、発展途上国への援助は役に立っているのか、を問うてみる。これは途上国の国民生活ばかりか、我々納税者にとっても切実な問題である。それはまた「援助大国」日本の実像と、環境やエイズなどグローバルな課題の行方を示している。これらをふまえて「南北の時代」21世紀を展望してみたい。	【講義計画】 1. 日本の援助の概要を知ったうえで、基本的な課題として「Aid and Poverty」を読む。 2. 「The macroeconomic contribution of aid」を検討する。 全員が分担して和訳する。			
【成績評価の方法】 出席状況、分担部分の和訳、および前・後期末の試験によって総合評価する。	【参考文献】			
【教科書】 Robert Cassen “Does Aid Work” (Clarendon Press・Oxford)				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
外国書講読	17	通 期	4 単位	寺 中 直 人
[講義概要・学習目標] <p>この講義では、都市史、都市政策・計画、住宅問題、土地政策についての英語の文献と一緒に読むことを中心に進める。使用するテキストは、履修者の上記のテーマに対する興味と英語の能力に合うものを採用しようと考えている。それゆえ、初回の授業では、いくつかの本や論文を提示し、履修者の希望を聞けつつテキストを決めるので、履修者は必ず出席すること。</p> <p>この講義で習得してもらいたいことは、対象とするテキストを、全体の流れに即してその内容を把握し、それをまともな日本語で、いかに他者に伝えるかということである。それゆえ、文法や個々の単語には、それほどこだわらない。ただし、専門的な用語は注意を払う必要があるので、詳しく解説する。</p>	[講義計画] <p><前期> 文献和訳を中心に、上記のテーマを解説する。</p> <p><後期> 前期のテキストが、受講生にとって適切なものであったかどうかを勘案しつつ、後期のテキストを決める。</p>			
[成績評価の方法] <p>学生諸君の論議を中心に行うので、出席評価を重視する。それゆえ、予習は不可欠である。予習が不十分であれば、出席していても点数はない。また、小テストを1回、および学年末試験もおこなう。詳しくは、最初の講義で説明する。</p>	[参考文献]			
[教科書] <p>テキストは、随時コピーして渡す。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
外国書講読	18	通 期	4 単位	濱 田 博 男
[講義概要・学習目標] <p>経済書・雑誌論文・新聞記事などを読み、英文の情報をつうじて今日の世界・日本経済の現状とその抱える諸問題を広く理解できるようにしたい。</p> <p>継続しての学習努力が必要なので出席を重視します。宿題も課します。授業には辞書必携。</p> <p>テキストは当方でコピーし、授業時に配布します。</p>	[講義計画] <p><前期> 平均的な英語読解力に配慮し、比較的やさしい新聞経済記事を中心にし、経済英語に慣れるようにします。</p> <p><後期> やや難しい経済論文に重点を移す予定。</p>			
[成績評価の方法] <p>平常成績（出席状況、毎回の課題・宿題にたいする努力状況）と年2回のテストの成績で総合評価します。</p>	[参考文献]			
[教科書]				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
外国書講読	19	通 期	4 単位	原 正 行
[講義概要・学習目標] 経済学に関する英文を読むことによって 経済学の基礎理論を学習すると同時に、 英語の読解力を高める。	[講義計画] 事前に担当を決め、発表および討論を 行なう。			
[成績評価の方法] 平常点	[参考文献]			
[教科書] <i>Economics</i> by P.Samuelson & W.Nordhaus, 13th edition, Mcgrow-Hill Book Co.				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
外国書講読 英語	20	通 期	4 単位	米 山 隆
[講義概要・学習目標] H. L. A. Hart 先生 (Oxford 大学法哲学教授) "Essays on Bentham, Jurisprudence and Political Theory, 1982" の一章 "The United States of America" を読む。 先生は、ヨーロッパの理想主義哲学に傾倒 され、Bentham の功利主義を批判されている。	[講義計画] 順序にしたがって全員が読み、 討議することにする。			
[成績評価の方法] 出席は重視する。	[参考文献]			
[教科書]				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
外国書講読	21	通 期	4 単位	宮 永 輝
[講義概要・学習目標] 外国書講読は、まず英語を読むことになれることを目標に置き、次に単なる英語の読解力の習得ではなく、大意把握を通して経済学の考え方を研鑽することを目的とする。	[講義計画] 基本的に教科書の輪読を行うが、当初は英語および経済学の専門用語に慣れることを目的に、輪読の一回目は各受講者に教科書から比較的短い文章(1~2ページ)を割り当て、直訳してもらうこととする。 二回目からは一人につき、10~15ページを割り当てて内容を報告してもらう。報告者は報告内容をまとめたレジュメ(A4サイズ2~4枚程度)を用意して報告を行うこと。			
[成績評価の方法] 出席50%、授業内レポート50%とする。	[参考文献]			
[教科書] Milton & Rose Friedman, <i>Free to Choose; a personal statement</i> , Harcourt Brace Jovanovich, New York, 1979.				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
外国書講読	31	通 期	4 単位	小 川 登
[講義概要・学習目標] ドップの名著『賃金論』を通じて、社会科学入門を学びたい。M. Dobb, <i>Wages</i> はケインズが初代編集長をつとめた The Cambridge Economic Hand booksのなかの1冊であり、古典的名著といえよう。初版は1928年。 ドップの文体は難解そのもので、訳しがいがあるというもの。賃金論というよりも賃金制度論と言ったほうが適切で、資本主義経済全般の制度分析となっている。その意味で、きびしい内容の社会科学入門といえよう。	[講義計画] (前期) ドップの文章が難解なので正確な逐語訳をしていく予定。 (テキストが絶版となっているので、当方でコピーして配布する。) (後期) ChapterIVの「Theory of Wages」に重点をおく予定。			
[成績評価の方法] 12月末日までに提出していただく第4章「賃金の理論」の逐語訳レポートで決める。	[参考文献]			
[教科書] M. Dobb (著) 「Wages」 (James Nisbet)				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
外国書講読 ニューエイジの研究	32	通 期	4 単位	沼田 健哉
[講義概要・学習目標] ニューエイジの歴史・語相、比較研究、インターネットを以て中心に、それ以外の語相や運動に関して講義する。宗教学、社会学、社会心理学、いかなる人文科学を以て社会理解の中心とするか。ニューエイジを中心とした現代の宗教運動の語相の把握とその研究の方法論に関して学ぶことが目標である。	[講義計画] 教科書により講義する。なおニューエイジを含む宗教学野に関して講義する。			
[成績評価の方法] 出席率及びレポートによる。	[参考文献] 沼田健哉『宗教と科学のネオパラダイム—新新宗教を中心として—』創元社 島 苗 佳『精神世界のゆくえ—現代世界と新霊化運動—』東京堂出版 『宗教と社会学』『宗教と社会』第4号 Bryan Wilson, Religion in Sociological Perspective OXFORD UNIVERSITY PRESS, OXFORD NEW YORK			
[教科書] edited by James R. Lewis and J. Gordon Melton PERSPECTIVES ON THE NEW AGE, State University of New York Press.				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
外国書講読	33	通 期	4 単位	松村昌廣
[講義概要・学習目標] 卒業後も十分役立つ実用英語の読解力を身につける強い意志があり、また、そのために努力を惜まない学生に対して、丁寧だが厳しい訓練をする。時事英語、とりわけ、国際関係論の視点から、米国の外交政策を左右する力と影響力を有すると言われる外交評議会 (Council on Foreign Relations) の出版物の中から、日米同盟と朝鮮半島情勢に関する文献を輪読する。また、必要に応じて、The (London) Economist や International Herald Tribune などからの記事を並行して利用する予定である。 社会学部生だけでなく他学部生でも英検準1級程度以上の力を付けたいと希望する学生を主として受け入れたい。国際関係論の知識をとりわけ受講の条件とはしない。しかし、「やる気」は必要である。 少数精鋭でいきたい。 また、単位を埋めるためだけの目的の受講は無駄である。以下の成績評価方法をみれば、その理由は明らかであろう。	[講義計画] 輪読形式。			
[成績評価の方法] 1) 出席点 2点 X 25回 = 50点 但し、毎回指定ページを和訳し、提出してもらう。 2) 学年末試験 (読解力試験) : 50点 (テキストからは出題せず、新聞記事等から出題する。とくに、試験勉強は必要ない。) *評価の目安 80~100点・・・A 70~79点・・・B 60~69点・・・C	[参考文献] 英和・和英辞典、英英辞典を用意すること。			
[教科書] 配布する。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
外国書講読	34	通 期	4 単位	村 山 高 康
【講義概要・学習目標】 いまどちらを向いても、Globalization についての議論が花盛りである。ここでは、国際政治と Globalization についての簡潔な概論を講読する。テキスト内容のレベルは英字新聞程度である。国際政治に興味をもつ受講生が、基礎的な勉強をするに適したテキストである。	【講義計画】			
【成績評価の方法】 出席重視は当然であるが、もちろんそのうえで日常の読解の努力を総合評価。	【参考文献】			
【教科書】 Jan Aart SCHOLT, "The Globalization of World Politics"				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
外国書講読	35	通 期	4 単位	森 本 良 男
【講義概要・学習目標】 アメリカ、欧州、アジア諸国の新聞、雑誌の英文をじっくり読んで、諸外国のジャーナリズムの特徴、政治、経済や社会の動き、人々の生活と考えを探る。 このため、毎週、かなり固く、長い英文を訳して頂くことを課します。	【講義計画】 教材は、その時々々の新聞、雑誌のコピーを使い、できるだけホットな問題をとりあげていきたい。 (前期) 新聞のニュース記事、解説を中心に読む。 (後期) 雑誌類の各分野にわたる記事を中心に。			
【成績評価の方法】 こうした講義は「継続こそ力」ですから、①出席②授業への準備③訳文の評価などによる平常の成績を重視します。	【参考文献】			
【教科書】				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
外国書講読	36	通 期	4単位	北 野 誠 一
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>前年に引き続いて、NASWの Encyclopedia of Social Work 19版からいくつかのタイトルを選んで全訳にトライします。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>毎月 1タイトル (英文が10ページ程度)</p> <p>前期 3～4タイトル</p> <p>後期 3～4タイトル</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>自分の担当部分の責任をどの程度果たしたのか、及び全体にどの程度貢献したか。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>辞書は研究社の「リーダーズ英和辞典」レベルが必要です。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>必要な資料等は、講義中に適宜配布します。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
外国書講読	51	通 期	4単位	柴 理 梨 亜
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>国際化や情報化が進むなか、現代のビジネスマンにとっては英文の情報を直接取り入れ、分析し、利用することが不可欠となっている。特に会計の分野では企業の情報開示が重視され、24時間世界中で投資活動が行われる今日では会計情報を読み取る力が重要となる。</p> <p>この科目では、国際会計に関するテーマを中心に会計の専門用語及び基準等の知識を身につけることを目標とする。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>事前に担当を決め、プリントの翻訳と解説をして、全員でその内容を議論して確認する。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>平常の報告内容、レポート、クラスでの発表を総合的に評価する。無断欠席は減点になります。</p>	<p>[参考文献]</p>			
<p>[教科書]</p> <p>テキストはコピーして随時配布する。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
外国書講読	52	通 期	4 単位	ヤ ン 梁 カ ン ス 官 洙
【講義概要・学習目標】 <講義概要> TEXTを中心に経済学の基本概念と国際及び世界経済の主要問題について講義する。特に、戦後世界政治経済体制の核心と言われるIMF・GATT体制の形成・変化・再編成までの諸要因とその後の国際金融体制と世界貿易機構（WTO）の機能と役割について開発途上国の経済成長システムと関連させながら講義する。 <学習目標> 英文の基礎的な経済専門用語をしっかりと学習する。テキストは20章で構成されているので1年間全部講読する。その上、できる限り、国民経済と世界経済との壁が低くなっているいわゆる経済のグローバル化の中で世界経済構造の変化要因のポイントを理解してもらう。	【講義計画】 TEXTを講読しながら経済学の基本概念と世界経済の変化のしくみについて講義する。			
【成績評価の方法】 ・出席、授業時の態度、1－2回の期末試験を総合して評価	【参考文献】			
【教科書】 John Drucker, Understanding World Economy (入門・世界経済のしくみ) Macmillan Languagehouse, 1996年初版				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
外国書講読 (英語)	53	通 期	4 単位	岡 本 英 嗣
【講義概要・学習目標】 1. 企業はヒト・モノ・カネの経営資源をうまく組み合わせて、最良の生産方法を見つけ出すために、「情報」という資源を活用する。この外書講読（英語）では「情報」が企業組織の中でどのような役割を果たすのか、経営学の立場から考えたい。 2. 最初の2・3回は概略について説明し、その後のやり方は学生に相談する。外書に慣れ親しんでもらうために、ゆっくり進めたい。学生は常に辞書（高校時代のものでよい）を持参すること。とにかく「学ぶより、慣れよ」である。	【講義計画】 学習内容 第1章 組織：経営者・管理者、構造、活動について（P. 4-34） 1. 組織とは何か。 2. 管理スタイルや管理プロセスが組織の情報システムの展開にいかに関与を与えるか。 第2章 経営者・管理者の情報ニーズと情報源について（P. 38-58） 各組織階層で求められる情報ニーズと情報の種類について学ぶ。 以上が概ねの内容であるが、授業の状況によってはいくぶん変更もある。			
【成績評価の方法】 成績は出席点と前期・後期2回のテスト（学習した範囲の全訳）結果で評価する。	【参考文献】			
【教科書】 George, M. Scott, The Principles of Management Information Systems, McGraw-Hill.1986.				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
外国書講読	54	通 期	4 単位	鬼塚光政
【講義概要・学習目標】 2億の人口を有する政治大国中国は、1970年代末以来「社会主義的市場経済(Socialist Market Economy)」体制の名のもとで改革・開放政策を進め、企業制度の改革、外国資本の導入、社会資本の整備等により急速な経済発展を遂げつつあり、21世紀には巨大な消費市場として、また良質な労働力を持つ工業生産の一大拠点として、世界経済に強大な地位を占めることは確実であり、経営の国際化、グローバル化を推進している日本企業と日本人にとって、この隣国の経済発展は無視できないことである。 この講読では、中国に進出している外国企業の経営の概況と日本の経営の中国への移転を巡る問題を扱っている英文論説を読むことを通じて、中国における外国企業、とくに日系企業の経営の問題を一緒に議論しながら考えることにしたい。 テキストの英文は非常に簡潔・明快であり、予習を怠らなければ理解は容易である。意欲の諸君の参加を歓迎する。	【講義計画】			
【成績評価の方法】 出席、予習、授業中の討論への参加等の状況を総合的に勘案する。	【参考文献】 鈴木幸毅（編） 『日本企業のアジア進出』、税務経理協会			
【教科書】 Roger Strange(編). <u>MANAGEMENT IN CHINA</u> . Frank Cass Publishers, 1998. より抜粋したものをプリントして配布する。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	氏 名
外国書講読	55	通期	4 単位	津戸正廣
【講義概要・学習目標】 経営学を勉強するためには、体系的な本を読むことも、時事的な新聞や雑誌の記事を読むことも、ともに重要です。 この授業では、最も現代的なテーマについて考えるために、新聞や雑誌の英文記事を読んで議論します。英語を勉強するというより、今日の話題をいち早く英語で読み、経営学的な発想やセンスを磨くことに重点を置きます。最近の話題を取り上げるので、最も現代的なテーマについて考える良い機会となります。 毎回、できるだけ多くの受講生に指名しますので、予習を怠らないようにしてください。進度はそれほど速くはないので、丹念に辞書をひく習慣をつけてください。ただし、翻訳だけに偏らずに、受講生に率直な意見を出しあってもらい、授業を盛り上げます。最近の話題について解説し、みんなで討論をする機会も設けます。 英語が得意な人も不得意な人も、社会に出てから、積極的に活躍できるよう、そのための基本的な能力を積み上げておきましょう。	【講義計画】 4月および5月は、なるべく基本的な話題を取り上げて、英文の記事に慣れてもらいます。その話題の背景についても、解説します。また、勉強の仕方についても、アドバイスをします。 6月および7月は、経営学に関する特定の問題についての記事を取り上げ、やや深く議論をします。例えば、バブル崩壊後の企業の現状、日本の経営の変質などに関する話題を扱います。 9月および10月は、英文を読みこなすだけでなく、各受講生に自分の意見を発表してもらう機会を増やします。特に、日本の経営は、独自の道をとるべきか、「世界の標準」に合わせるべきか、というような争点について、率直に意見を交わします。 11月から1月までは、多くの受講生が興味を持っているテーマ、あるいはその時点で注目されている話題を見極め、それについて集中的に議論します。 1年間の授業を通じて、自分の得意なテーマをいくつか身につけてもらいます。こうして身につけた素養は、他の諸問題を考察する場合にも、役立ちます。			
【成績評価の方法】 授業への出席を最も重視します。さらには、経営学理解の到達度、討論への熱意、積極的な質問なども総合的に考慮して評価します。	【参考文献】 必要に応じて指示しますが、日頃から現代の日本に生じている諸問題について、新聞・雑誌・テレビなどを通じて、よく知っておくことが、最良の参考になります。			
【教科書】 プリントを配付します。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
外国書講読	56	通 期	4 単位	堀 友 章
【講義概要・学習目標】 本講義は、College Accountingの講読により、複式簿記の原理、会計の仕組みを理解し、会計処理の技能を高めることを目標にする。 教科書以外に、計算問題を記載したプリントを、毎講義時に配布する。受講生は指示された会計処理を行い、答案を提出しなければならない。	【講義計画】 1 ACCOUNTING CONCEPTS AND PROCEDURES 2 DEBITS AND CREDITS: ANALYZING AND RECORDING BUSINESS TRANSACTIONS 3 BEGINNING THE ACCOUNTING CYCLE 4 THE ACCOUNTING CYCLE CONTINUED: PREPARING WORKSHEETS AND FINANCIAL REPORTS 5 THE ACCOUNTING CYCLE COMPLETED: ADJUSTING, CLOSING, AND POST-CLOSING TRIAL BALANCE 6 MANUFACTURING ACCOUNTING			
【成績評価の方法】 出席率、毎週の授業において提出するレポート、期末テスト等で評価する。	【参考文献】			
【教科書】 JEFFREY SLATER College Accounting (Prentice Hall 1996)				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
外国書講読	57	通 期	4 単位	山 本 浩 二
【講義概要・学習目標】 この講読では、管理会計に関する英語の文献を読むことによって、管理会計の役割を学習するとともに、現代の管理会計におけるトピックを取り上げて解説する。 主なテーマは、次のようなものである。 ・管理会計の基礎 ・活動基準原価計算 ・戦略的管理会計	【講義計画】 事前にテキストのコピーを配布して、担当箇所を割り当てたうえで、輪読する。			
【成績評価の方法】 平常の出席状況、担当箇所の報告内容によって評価する。	【参考文献】 必要に応じて指示する。			
【教科書】 テキストは、コピーして配布する。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
イギリス文学史Ⅱ (旧英文学史)		通期	4単位	金城盛紀
[講義概要・学習目標] イギリスの文学を王政復古期から現代まで、作品を読むことによって概観する。詩が中心になるが、小説のいくつかは映像で味わいたい。相当な努力を必要とするが、英文学の豊かさと面白さを実感する形で十分に報いられるであろう。1年生でもついていけるよう配慮はするが、漫然と出席するだけでは無意味だけでなく、試験も通らない。	[講義計画] ポープから現代まで、代表作をできるだけ多くかつ深く読みたい。必要に応じてプリントや音声資料も使用する。			
[成績評価の方法] 試験と平常点	[参考文献] 必要に応じて指示する。			
[教科書] 同志社女子大学編『イギリス文学の精華』（南雲堂）				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者																																
アメリカ文学史 (旧米文学史)		通 期	4 単位	中 井 紀 明																																
[講義概要・学習目標] 『白鯨』『スカーレット・レター』『偉大なるギャップビー』『老人と海』『ボストンの人々』などは映画でお馴染みの作品だが、実はこれらはアメリカ文学史上傑作と認められている小説を映画化したものである。このような作品を産みだした源流を、英国から北米大陸への移民が始まった17世紀にまで遡り、そこから現代までのアメリカ文学の流れを講義をする。現代文学を理解するにはその源流をしっかりと把握しておかなければならないので、毎回作品の原典を押さえながら講義を進めて行く。英語としっかり格闘しながら毎回渡される資料を読んでもらう。	年間講義予定 <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">前期</th> <th colspan="2">後期</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1-2</td> <td>アメリカへの移民 ピューリタンの思想と文学</td> <td>1-2</td> <td>アメリカ文学の独立 Melville</td> </tr> <tr> <td>3-4</td> <td>18世紀の啓蒙主義</td> <td>3-4</td> <td>文学思潮の変化 Realismの文学 Twain, Howells, James</td> </tr> <tr> <td>5-6</td> <td>アメリカ文学の独立 Irving, Cooper, Bryant, Bghmins</td> <td>5</td> <td>文学思潮の変化 Naturalismの文学 Crane, Norris, Dreiser</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>アメリカ文学の独立 Poe</td> <td>6-8</td> <td>両大戦間の文学 Cather, Anderson, Fitzgerald, Hemingway, Faulkner</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>アメリカ文学の独立 Emerson, Thoreau</td> <td>9</td> <td>両大戦間の文学 Frost, Sandburg, Stevens, cummings</td> </tr> <tr> <td>9-10</td> <td>アメリカ文学の独立 Hawthorne</td> <td>10-11</td> <td>第二次世界大戦後のアメリカ文学 南部の作家、黒人作家、ユタヤ系の作家</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>アメリカ文学の独立 Whitman, Dickinson</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				前期		後期		1-2	アメリカへの移民 ピューリタンの思想と文学	1-2	アメリカ文学の独立 Melville	3-4	18世紀の啓蒙主義	3-4	文学思潮の変化 Realismの文学 Twain, Howells, James	5-6	アメリカ文学の独立 Irving, Cooper, Bryant, Bghmins	5	文学思潮の変化 Naturalismの文学 Crane, Norris, Dreiser	7	アメリカ文学の独立 Poe	6-8	両大戦間の文学 Cather, Anderson, Fitzgerald, Hemingway, Faulkner	8	アメリカ文学の独立 Emerson, Thoreau	9	両大戦間の文学 Frost, Sandburg, Stevens, cummings	9-10	アメリカ文学の独立 Hawthorne	10-11	第二次世界大戦後のアメリカ文学 南部の作家、黒人作家、ユタヤ系の作家	11	アメリカ文学の独立 Whitman, Dickinson		
前期		後期																																		
1-2	アメリカへの移民 ピューリタンの思想と文学	1-2	アメリカ文学の独立 Melville																																	
3-4	18世紀の啓蒙主義	3-4	文学思潮の変化 Realismの文学 Twain, Howells, James																																	
5-6	アメリカ文学の独立 Irving, Cooper, Bryant, Bghmins	5	文学思潮の変化 Naturalismの文学 Crane, Norris, Dreiser																																	
7	アメリカ文学の独立 Poe	6-8	両大戦間の文学 Cather, Anderson, Fitzgerald, Hemingway, Faulkner																																	
8	アメリカ文学の独立 Emerson, Thoreau	9	両大戦間の文学 Frost, Sandburg, Stevens, cummings																																	
9-10	アメリカ文学の独立 Hawthorne	10-11	第二次世界大戦後のアメリカ文学 南部の作家、黒人作家、ユタヤ系の作家																																	
11	アメリカ文学の独立 Whitman, Dickinson																																			
[成績評価の方法] 前期・後期の定期試験(下記の教科書を精細に読んでいるかどうか、毎回配布される資料をその意義を理解して読んでいるかどうかの二つをチェックする試験になる)、および随時行うクイズの成績と平常の努力点。出席重視。	[参考文献] 『コロンビアアメリカ文学史』（山口書店）など。（そのつど授業中に紹介する）																																			
[教科書] 教科書 谷本泰三他著『初めて学ぶアメリカ文学史』（金星堂、1995）																																				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
英語学概論	01	通 期	4 単位	ケビン グレグ Kevin R. Gregg
【講義概要・学習目標】 「英語学」とは、英語を対象とする言語学、つまり言語の科学である。科学だからこそ、言語学の目的は、言語現象を記述したりするだけでなく、その現象を説明しようとするところである。 「英語学概論」だから、英語における諸現象の詳細な記述も説明もできないし、英語に関してきめ細かい、表面的なデータをたくさん与えるつもりも毛頭ない。むしろ英語の文や語彙の構造、音韻体系、などについての基盤となる概念のみを紹介し、把握してもらうこととする。 「英語学概論」だから、主に英語の現象について語る。が、日本語その他の言語のデータも与えて、宿題や試験の対象とすることもある。 本授業の目的は、単に英語に関する事実を山ほど覚えさせることでは決してない。それどころか、英語を人間言語の一例とし、言語学という科学の研究対象と、その研究方法を把握してもらうことである。言語に興味をもって英語を科学的な立場から勉強したい学生を対象とする授業なので、教職課程の学生にとっては、それほど役立つ授業になるとは思えない。	【講義計画】 1) 科学としての言語学 2) 統語論：(英語の) 文の構造 3) 形態論：(英語の) 語彙の構造 4) 音声学：(英語の) 発音 5) 音韻論：(英語の) 調音の規則 6) 意味論：文内や文間の意味関係 7) 語用論：発話の解釈；文字どおりでない意味			
【成績評価の方法】 小テストも年度末定期試験も行なう。従って年度末定期試験でうかつても単位がとれない可能性も十分ある。出席する義務は、もちろんないが、よく欠席したり、念入りにノートをとらなかつたりすると、単位がとれる可能性は極めて低くなる。そして授業中私語をしたり眠ったりするような、マナーを知らない学生は、早速除籍される。	【参考文献】			
【教科書】 中島平三、『ファンダメンタル英語学』ひつじ書房、1995				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
英語学概論	02	通 期	4 単位	三 宅 亨
【講義概要・学習目標】 英語学(English Linguistics)は、英語という言語の構造や機能に関する科学的研究である。英語の音声・形式・意味に関する諸領域における研究成果を紹介すると同時に研究方法についても言及したい。現代の英語を様々な角度から取り上げるだけでなく、歴史的な観点から英語の発達過程についても考察する。また、言語習得理論や社会言語学などの英語学の関連諸分野についても論じる。 英語学研究を志す学生や英語教員を目指す学生の受講を歓迎する。 講義では、handouts(配布資料)を利用して、教科書には書かれていない内容について話す時間をとりたいので、テキストは予め読んでおいて講義に臨んでもらいたい。	【講義計画】 <前期> <ol style="list-style-type: none"> 1. 英語学とは(総論) 2. 音声学 3. 音韻論 4. 形態論 5. 統語論Ⅰ(伝統文法) 6. 統語論Ⅱ(構造文法) 7. 統語論Ⅲ(生成文法) <後期> <ol style="list-style-type: none"> 1. 意味論 2. 語用論 3. 談話文法 4. 英語史Ⅰ(Old English) 5. 英語史Ⅱ(Middle English) 6. 英語史Ⅲ(Modern English) 7. 社会言語学 			
【成績評価の方法】 遅刻や欠席の多い学生には単位を与えない。前期・後期の定期試験はもちろんのこと、日常の学習参加への熱意と小テスト・レポートなどに基づき、総合的に評価する。	【参考文献】 松浪有・池上嘉彦・今井邦彦(編)『大修館英語学事典』大修館書店 太田朗(編)『英語学体系』全15巻、大修館書店 その他、テーマごとに指示する。			
【教科書】 石黒昭博他『現代の英語学』金星堂				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
英米文学概論	01	通 期	4 単位	日 下 隆 平
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>この講義はこれからイギリス文学を学んでゆくうえで、必要となる事柄の修得を目標とする。前期は主として、叙事詩や悲劇など文学作品のジャンルや形式に始まって文芸批評の用語や詩型に至るまで、英文学を学ぶうえで知っておかねばならない知識を代表的な作品を通して学んでゆく。もっとも大切なのは実際に（翻訳であろうとも）作品を読むことである。従って、後期は主として、個別研究の事例として19世紀から今世紀初頭にかけて書かれた作品にあたって、そのテーマ・思想・表現などを分析してゆく。</p> <p>授業ではハンドアウトを配布して説明してゆく。また、背景を理解するためにビデオテープも用いてゆくつもりである。</p>	<p>[講義計画]</p> <p><前期> ジャンルからみた文学作品 詩の種類 詩型と規則 比喩、神話と象徴、</p> <p><後期> テーマによる文学</p> <p>1 文学と都市: 19世紀から今世紀にかけて都市はどのように描かれてきたか William Blake, "London", William Wordsworth, "Composed upon Westminster Bridge" James Thomson, "The City of Dreadful Night" Charles Dickens, "Night Walks" T.S. Eliot, "Rhapsody on a Windy Night" Richard Le Gallienne, "A Ballad of London"</p> <p>2 文学と現代 T.S. Eliot, "The Hollow Men", "Preludes", "The Love Song of J. Alfred Prufrock"</p> <p>3 アイルランド問題と文学 W.B. Yeats, "Easter, 1916"</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>授業中に課すレポートと前期・後期終了時に試験を行う。</p>				
<p>[教科書]</p> <p>M.C. コルカット・上島（編注）、『現代英詩選』、北星堂 また、授業で毎回ハンドアウト配布する。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>授業で指示する。</p>			

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
英米文学概論	02	通 期	4 単位	出 原 博 明
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>主として近・現代の心理小説について論じます。</p> <p>19世紀小説を完成させると共に20世紀心理小説の元祖となった巨匠 H. Jamesの名作『或る婦人の肖像』を中心テキストとして、その方法と内容について多角度から切り込み、心理小説の本質を解明します。例えば、人間の内面を描くのにどのような方法が用いられているか、経験とは何か、意識とはどういうものか、時間とは如何なるものか、などが主題となります。</p> <p>H. Jamesの他に、この講義で取り上げる作家は、E. Wharton, V. Woolf, J. Joyceなどです。</p> <p>これは又、或る意味では、モダニズムの研究と表裏をなすことにもなります。（英語力があることが望ましい。ビデオも補助的に利用します。）</p>	<p>[講義計画]</p> <p>前期の期間中に受講生は、『或る婦人の肖像』を読了しなければなりません。この期間、私は教室で、専門用語なども紹介しながら近・現代の小説芸術の傾向と諸特徴について講義します。</p> <p>後期は、受講生が『或る婦人の肖像』を読了しているということを前提として、頻繁に具体的にテキストに言及しながら、その内容と方法について詳細に論じます。その過程で、他の文学者や作品のことも必要に応じて取り込んでいきます。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>1回のレポート、1回のテスト、授業参加の積極度、この三つの成果を踏まえて総合的に判断する。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>教室で指示する。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>『或る婦人の肖像』上中下、ヘンリー・ジェイムズ作、行方昭夫訳、岩波文庫</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
英語の構造	01	通 期	4 単位	木 村 ゆ み
[講義概要・学習目標] ひとくちに「言語の構造」といっても、音の構造、意味の構造、文の構造など、その意味するところは広い。本講では、文の構造に焦点をあて、統語論の観点から、まず、文のレベルでの分析をすすめ、高校までに既習の英語の構造を捉え直し、整理する。又、文レベルを越えた談話レベルにおいても、英語の様々な統語現象を総合的にとらえてゆきたい。	[講義計画] <前期> 1 文と発話行為：文の機能 2 文の要素：構成要素の意味役割 3 文の構造：(1) 動詞の型 (2) 形容詞の型 (3) 名詞の型 <後期> 4 時制と相：(1) 時制 (2) 相 5 注意すべき文法範疇：(1) 法助動詞 (2) 否定 (3) 態 6 情報構造と主題構造			
[成績評価の方法] 前・後期試験、提出物、出席率により評価 遅刻、いねわり、私語等は減点の対象となる	[参考文献] その都度指示する			
[教科書] 村田勇三郎・戌田圭市（共著）「英語の文法」（大修館書店）				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
英語の構造	02	通 期	4 単位	三 宅 亨
[講義概要・学習目標] 私たちは、あるルールに従って組み合わせた言語音（記号）を用いて自分の表現したいこと（意味）を聞き手（読み手）に伝える。言語音とその連鎖である語や句・文にも、意味にもそれぞれ構造がある。つまり、文は単に幾つかの語が無秩序に並んだものではなく、一定のルールに従って組み立てられたものである。その構造を理解しなければ、文を読んだり、書いたり、聴き取ったり、話したりすることはできない。この講義では、文の構造を扱う統語論(syntax)を中心にして、高校までに学んだ英文法の知識を現実に使われている英語と比べて整理し直す。同時に伝統文法(traditional grammar)から生成文法(generative grammar)や機能文法(functional grammar)、語用論(pragmatics)、談話分析(discourse analysis)など最新の言語理論への橋渡しを試みる。	[講義計画] 1. 文 2. 動詞と文型 3. 時制と相 4. 話法 5. 態 6. 助動詞 7. 法と条件 8. 否定 9. 形容詞 10. 副詞類 11. 情報構造			
[成績評価の方法] 遅刻や欠席の多い学生には単位を与えない。前期・後期の定期試験はもちろんのこと、日常の学習参加への熱意と小テスト・レポートなどに基づき、総合的に評価する。	[参考文献] その都度指示する。			
[教科書] 毎回handoutsを配布する。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
イギリスの詩 (英詩の楽しみ) (旧英米文学講読)		前 期	2 単位	岡 田 章 子
[講義概要・学習目標] 詩はイギリス文学の中でも最も歴史が長く重要な位置を占める。口承された古い時代の詩から、哲学的、宗教的な詩に至るまでその内容は広範囲にわたる。深く読めば読むほど味わい深いものである。しかしながら、学生にとっては何となく親しみにくいと敬遠されることも多い。この講義では比較的易しく楽しい詩を取り上げて観賞するのが目的である。読んでいく作品は 16 世紀から 19 世紀まで網羅し、作者もさまざまである。詩人達の伝記や文学史の中での詩の流れを学びながら詩の基本的な知識を習得する。学生は習った詩は暗記するくらいの心構えをもって味わってほしい。	[講義計画] 導入 英詩の流れ 詩の楽しみかた 選集を読む			
[成績評価の方法] 試験と平常点	[参考文献] 志子田光雄 「英詩理解の基礎知識」 (金星堂 1990)			
[教科書] 中西信太郎 A First Book of English Verse (英宝社)				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
イギリスの小説 (ギルフィル氏の恋の物語) (旧英米文学講読)		後 期	2 単位	中 村 祥 子
[講義概要・学習目標] ロビンソン・クルーソー ^ロ かリチャード旅行記 ^ロ など、草創期のイギリス小説も分かるが、おもしろいが、これら 18 世紀イギリス小説のおもしろさの中心は、主人公の経験する 特異な奇抜な冒険物語にあると言えらる。それに対し 19 世紀のイギリス小説は、描かれる社会背景がリアルになるだけでなく、主人公の喜び、悩み、苦しみ等々、今日私たちの経験するものとほとんど変わりなく、私たちの身近に起ったことであるかのように鑑賞することが出来る。この講義では、新しい 19 世紀イギリス小説の傑作を数多く書いた George Eliot の短篇小説を取り上げ、小説を読む楽しみを味わいたい。	[講義計画] George Eliot の短篇小説集 <i>Scenes of Clerical Life</i> 中の一篇、'Mr. Gilfil's Love Story' を読んでみる。これは Eliot の初期作品だが、後の大作の力量を充分に予感させる名作である。特に Gilfil 氏の恋愛かほらんという問題点を考証し、味読する。			
[成績評価の方法] 定期試験の成績と平常点の総合評価による。平常点には出席状況及び授業への程度積極的に参加したか否かも考慮する。	[参考文献] 授業中に指示する。			
[教科書] 'Mr. Gilfil's Love Story' 出版社は未定				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
イギリスの演劇 (今日のシェイクスピア) (旧英米文学講読)		後 期	2 単位	小 野 良 子
[講義概要・学習目標] シェイクスピア劇の楽しみ方、研究法は様々だが、本講義では20世紀の映像の中で描かれるシェイクスピアの世界を考える。取り上げる作品はシェイクスピア最後の作品、『テンペスト』の現代版で、作品構成を比較検討しながら、シェイクスピア劇の普遍性・現代性について考える。	[講義計画] 1. ボール・マザースキーの『テンペスト』(1982年) 現代のニューヨークを舞台に描かれる、再会と和解の物語 2. ビーター・グリーンウェイの『フロスベローの本』(1991年) 日本のNHKが技術協力したハイビジョンとコンピューターグラフィックの画像の中で描かれる魔法の世界			
[成績評価の方法] レポート 1点提出 (400字×20~25枚) 小エッセイ 毎講義終了時に提出	[参考文献] 講義時に紹介の予定			
[教科書] Shakespeare, Tempest				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
アメリカの詩 (モダニズムの詩人たち) (旧英米文学講読)		後 期	2 単位	出 原 博 明
[講義概要・学習目標] 先ず、文学の精華はやはり詩である、ということ認識して下さい。 E. Pound, T. S. Eliot, R. Frost, W. C. Williams, H. D., M. Moore, e. e. cummings, J. Ransom, S. Plathなど、modernismの詩人たちとその作品を中心に講義をすすめていきます。 彼らの因習にとらわれない実験と革新について解説し、その新しいリリズムと知性を味わって楽しめます。 このModernismへの日本の俳句の影響について具体的に例証します。 W. WhitmanとE. Dickinsonをも紹介します。Modernistの詩人たちは、或る意味では、この二大詩人を始祖とする系譜に列なるともいえるからです。	[講義計画] 各詩人毎にハンドアウトを渡して、バックグラウンドや作品について解説したうえで、作品そのものに直に触れてもらいます。 必要に応じて手助けはしますが、受講生全員に、各自の感性と知力を総動員して作品を味わうという快樂に参加してもらいます。 ときにはカセットテープを聴き、たまにはビデオも観ます。			
[成績評価の方法] 授業参加の積極度と一回のテスト	[参考文献] 教室で指示する			
[教科書] プリント				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
アメリカの小説（メルビルの『ピエール』） （旧英米文学講読）		前 期	2 単位	佐々木 英 哲
〔講義概要・学習目標〕 Melvilleによるファミリー・ロマンス <i>Pierre</i> (1852) を取り上げる。主人公の眉目秀麗な青年 Pierre は、父親亡き後、気高い母親と二人で暮らしている。まだまだ女盛りの美しい未亡人に言い寄る男も多く、ピエールが嫉妬を覚えることもしばしばである。二人は互いを姉と弟と呼びあう常軌を逸した関係にある。ピエールには、許嫁の娘で、「金髪碧眼」の天使のようだと形容される、Lucy がいる。そこへ出現したのが、亡き父が素性の怪しい女に産ませたらしい隠し子、つまり異母姉、「オリーブ色」の肌をした「黒髪」の謎めいた娘、Isabel である。Isabel の出現により全ての歯車が狂っていく。「(異母) 姉」と「弟」とは「結婚」する。二人はまわりの者を巻き込んで破壊に向かって突き進む。 アメリカでは、親密で濃厚な私的空間としての「家族」が、19世紀資本主義萌芽期に形成された。そのような時代背景のもとで、この小説もまさに「家族」をその舞台に設定している。中産階級女性を中心となってきた読者層の歡心を買う下心もあったせいか、『白鯨』のような海洋物、冒険物と異なり、女性を多く登場させメロドラマ風に仕立てたこの作品からは、大衆小説にありがちなセンチメンタルな匂いさえも漂ってくる。作品／家族空間の内部にどのような力が入り込んでいるのか。階級、ジェンダー、人種は作品／家族空間にどれほどの磁場をもっているのか。 また、描写された主人公の青年の生き様は、作家メルビル自身の生い立ちにオーバーラップするようにも読める。一体、メルビルのどんな家族意識が彼を作品執筆へと衝き動かしているのだろうか。	〔講義計画〕 長編を半期で読もうという大胆な試みである。一回の授業で二章ずつこなしたいので、レジュメを用意してもらってレポート制をとる。レポートになった場合は特に責任を持って臨んで欲しい。 また、作家が表現としての可能性をその極限まで追求したものが、他ならぬ作品であり、私たちの前で「文学テキスト」となるのだ、という事実を常に忘れてはならない、と思っている。英語英米文学科に身を置く私たちとしては、可能な限り、時間の許す限り、メルビルの英語表現に目を配り、その解読作業に取り組みたい。			
〔成績評価の方法〕 筆記試験は行わず学期末レポートとする。レポーターとしての発表等、授業への貢献度を評価に加味する。当然のことながら出席は重視する。レポーター担当日は休まないように。	〔参考文献〕			
〔教科書〕 Herman Melville. <i>Pierre or The Ambiguities</i> . Evanston: Northwestern UP.				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
アメリカの演劇（『ガラスの動物園』精読） （旧英米文学講読）		後 期	2 単位	石 塚 浩 司
〔講義概要・学習目標〕 作者 Tennessee Williams (1911-83) は、アメリカの代表的な劇作家のひとりである。授業では、アメリカ劇作家全般についての知識を解説・講義したうえで、Williams の処女作を文学（戯曲作品）としてとりあげ、丁寧に読むことを心がける。翻訳ではなく英語で読むので、英語能力の向上とともに、文学の解釈能力の育成とが学習目標となる。当然のことながら、毎回の予習は欠かせない。したがって授業では講義形式を折り込みながらも、通常は演習として、学生が順次、発表することになる。	〔講義計画〕 はじめの2回の授業で、アメリカ劇作家を中心としたアメリカ演劇の歴史を講義したあと、その後の授業では、毎回テキストを読む。1回の授業で、一場を読み進んでいく。			
〔成績評価の方法〕 出席状況、発表内容、テスト結果を総合して評価する。	〔参考文献〕 『講座・英米文学史VI劇』（大修館書店） 『モダン・アメリカン・ドラマ』（研究社）			
〔教科書〕 『ガラスの動物園』（英宝社）				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
英米のエッセイ（「売れ線」エッセイは？） （旧応用英語講読）		前 期	2単位	藤 森 かよ子
[講義概要・学習目標] 講義目的：現代アメリカの売れっ子女性学者（田嶋陽子さんをもっと面白くしたようなイタリア系アメリカ人フェミニストでもある）であり戦論的論客であるカミーユ・バーリア（Camille Paglia）の評論文を読むことによって、「活きのいい」現代アメリカの英文に触れる。 講義内容：バーリアの代表的な著書 <i>Sexual Personae: Art and Decadence from Nefertiti to Emily Dickinson</i> (Yale UP, 1990) の序文（長い）をじっくり読む。この大著は古代エジプトやギリシャ悲劇からプレスリーやマドンナやダイアナ妃にいたる古今東西の芸術や文化にとりあげられ、讚美されてきたアイドルの表象を分析することによって、西洋文化の本質をつかもうとする野心的評論。序文を読むだけでも、概略は把握できる。これが西洋のものの見方だ！欧米の美術館や博物館に行くときには、役に立つ！	[講義計画] 第1回：なぜカミーユ・バーリア（Camille Paglia）か？ 2回から10回： テキスト精読 11回： まとめ・復習 前期最終回：試験			
[成績評価の方法] 出席／受講態度：50%（欠席5回で失格） 試験：50% 毎回提出する講義内容に関するコメント・質問記述用紙が出席カード。	[参考文献] Camille Paglia, <i>Sexual Personae: Art and Decadence from Nefertiti to Emily Dickinson</i> (Yale UP, 1990) <i>Sex, Art, and American Culture</i> (Vintage, 1993) <i>Vamps & Tramps</i> (Vintage, 1994) 上記三冊のうち二冊は河出書房新社から翻訳が出ています。自分で探さない。			
[教科書] プリント使用。第一回の講義において配布する。テキスト本体は大部で高価。序文のみ、コピーで精読。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
英米の映画（映画芸術の技法） （旧応用英語講読）		前 期	2単位	出 原 博 明
[講義概要・学習目標] 現代の映画芸術について勉強します。 必要に応じて英米以外の国の作品も取りあげます。例えば、現代映画の技法や時間の問題は、ロシアのエイゼンシュテインやフランスのアラン・レーネを抜きにして論じることは難しいでしょう。 人間の心理を映像で表現するのにどのような工夫が為されているか、シュールレアリズムと映画の関係、文学と映画の相互影響、などについてもお話しします。	[講義計画] 基本的には、理論をお話することとビデオによる映画鑑賞の二つを組み合わせながら授業をすすめていきます。 ときには、クラス全員でディスカッションする機会を持ちます。			
[成績評価の方法] 1回のテストと授業参加の積極度	[参考文献] 教室で指示			
[教科書] 無し				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
英語統語論Ⅰ（統語論入門） （旧英語学講読）		前 期	2単位	清 水 真 一
【講義概要・学習目標】 英語の文法的な文とそうでない文とを峻別する仕組みとしての文法を考察の対象とする。本講では、とくに狭義の文法としての統語論の考えるにあたり、どのようなモデルが考えうるのか、範疇をどう捉えるのか、また文句の基本的構造を作り出すのかなどを考察することにより、統語論の第一歩を踏み出し、受講生に統語論の導入をおこなう。教員志望者はとくにふるって参加されたい。出席をとくに重視する。	【講義計画】 (1) 方法論について (2) 文法の基本的な仕組みと統語論 (3) 範疇と素性 (4) 句・文の基本構造			
【成績評価の方法】 原則として、試験、クイズ、出席に基づいて総合評価をおこなう。	【参考文献】			
【教科書】 プリントを配布する。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
英語統語論Ⅱ（統率・束縛理論概説） （旧英語学講読）		後 期	2単位	清 水 真 一
【講義概要・学習目標】 基本的に英語統語論Ⅰの関連した枠組みに基づいて講義する。しかし、本講のみで議論が完結するかたちでクラスをすすめる。とくに統率・束縛理論の導入と英語に関するいくつかの基本的分析の実際をとおして、その着想・思考法を学ぶことにしたい。そのなかで、受講生各位が英語統語論、ひいては言語に対する自分なりの考え方を形成していく一助となれば幸いである。教員志望者はふるって参加されたい。出席をとくに重視する。	【講義計画】 (1) 統率・束縛理論導入 (2) 英語の基本的構文の類型について (3) 規則・表示に課せられる制約について (4) 統率・束縛理論と最近の言語研究についての若干のコメント			
【成績評価の方法】 原則として、試験、クイズ、出席に基づいて総合評価をおこなう。	【参考文献】			
【教科書】 プリントを配布する。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
意味論 (意味論の基礎概念) (旧英語学講読)		前 期	2 単位	林 宅 男
[講義概要・学習目標] 「意味論」は、語や文が表わす内容を研究する分野である。「意味」に関する研究には二つの大きな流れがある。一つは、記号論理学の成果を取り入れた形式意味論等に代表される「客観主義的意味論観」である。もう一つは意味を脳の精神作用の働きとの関係でとらえ、自己の経験に基づく主体的情報処理に関わる問題であるとみなす「認知主義的意味論観」である。今回は、近年の認知科学の発展と平行して注目を浴びている後者の主要理論について、前者の立場も折に触れつつ、その基礎的内容を解説する。	[講義計画] (1) 意味論の分野と立場の紹介 (2) 認知意味論の基本的概念 (3) 範疇とプロトタイプ (4) 認知モデルの種類 (5) 認知範疇モデルの種類 (6) イメージスキーマ (7) 認知文法 (8) メタファー理論 (9) メンタルスペース理論 (10) 構文研究 (11) まとめ			
[成績評価の方法] 出席、クイズ、課題、試験を総合的に評価する。	[参考文献] 1. 河上誓作 (編著) 「認知言語学の基礎」 研究社、1996年 2. 山梨正明 (著) 「認知文法論」 ひつじ書房、1995年 3. 窪田晴夫ほか (著) 西光義弘(編集) 「日英語対照による英語学概論」 くろしお出版、1997年 4. その他授業中に紹介する。			
[教科書] 1. 杉本公司 (著) 「意味論2」 日英対照による英語学演習シリーズ8ー くろしお出版、1998年 2. プリント				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
語用論 (語用論の基礎概念) (旧英語学講読)		後 期	2 単位	林 宅 男
[講義概要・学習目標] 文脈とは関係なく言語の意味を研究する「意味論」に対して、「語用論」は言語使用場面での意味を扱い、我々は言語を使ってどのように意志疎通を図るかに関するを研究する分野である。近年この研究分野の領域は多岐にまたがり、単に文法事象の文脈的説明や発話意図の研究にとどまらず、言語使用における認知的、社会的、文化的側面を取り入れた学際的なものに発展している。今回は、従来取り扱われてきた研究領域を中心に解説するが、最近の分野についても部分的に紹介する。	[講義計画] (1) 語用論の領域について (2) 言語使用と文脈 (3) 文法研究と語用論 (4) 情報構造 (5) 指示性 (6) 発話行為 (7) 発話解釈の原理 (8) 認知的語用論 (9) 対人コミュニケーションにおける語用論 (10) 社会/文化研究における語用論 (11) まとめ			
[成績評価の方法] 出席、クイズ、課題、試験を総合的に評価する。	[参考文献] 1. ジェニー トーマス (著) 田中典子他 (訳) 「語用論入門」 研究社、1998年 (Jenny Thomas, 1995 "Meaning in Interaction: An Introduction to Pragmatics" London: Longman) 2. ヤコブ メイ (著) 沢田治美、高司正夫 (訳) 「言葉は世界とどうかわるのか：語用論入門」 ひつじ書房、1996年 (Jacob L. Mey, 1993 "Pragmatics: An Introduction" Oxford: Blackwell) 3. レビンソン (著) 安井稔、奥田夏子 (訳)、研究社「英語語用論」 1990年 (Stephen C. Levinson, 1983 "Pragmatics" Cambridge: Cambridge University Press) 4. その他授業中に紹介する。			
[教科書] 1. 高原脩、林宅男、林礼子 (共著) 「プラグマティクスの展開」、勁草書房、1999年6月刊行予定 2. プリント				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
現代の諸問題と英米文学Ⅰ（無垢と掟） （旧英米文学特講Ⅳ）		後 期	2 単位	佐々木 英 哲
[講義概要・学習目標] <p>晩年を迎えたMelvilleによる中編選程小説Billy Buddを取り扱う。この中編は軍艦、軍神号という男たちだけが構成される閉鎖された空間内で起きる処刑事件をめぐる物語である。美貌の青年Billyは、この世に悪が存在することすら知らないような無垢そのものの存在である。そんなビリーに、彼の広いVere艦長はいつも目をかけてやっているが、上官Claggartは憎み嫉妬する。ビリーを首謀者とする謀反話をでっち上げたクラガートを、ビリーは一撃で殴り殺してしまう。ビリーには慈父のようだった艦長も従に従い、ビリーを処刑に付す。</p> <p>ビリーを陥れる行為の内に潜むクラガートの欲望とは何だったのか。美/無垢/純真(=ビリー)を打ちのめそうとクラガートが願うのはなぜか。クラガートの屈折した心理にはビリーへの愛、あるいは艦長への愛が絡まっているのか。艦長がビリーではなく法/規律/秩序を選択するのはなぜか。20世紀末に生きる我々読者は今日の視点から臨むと、19世紀の作家が作品内に表わしたものの、隠したものを、作家の英語表現からどれほど抽出できるのだろうか。</p>	[講義計画] <p>読みの便宜を図るために、日本人研究者の注釈の付いたテキストを使用する。半期の授業で完読する予定でいるので、一回の授業で十数ページは読みこなしていきたい。</p>			
[成績評価の方法] <p>筆記試験は行わず学期末レポートとする。出席を重視し、授業への積極的参加度を評価する。</p>	[参考文献]			
[教科書] <p>Melville: <u>Billy Budd</u>. 編注 北川悌二. 北星堂.</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
現代の諸問題と英米文学Ⅱ（職業の選択） （旧英米文学特講Ⅳ）		後 期	2 単位	中 村 祥 子
[講義概要・学習目標] <p>近代社会以降は、基本的には誰もが自由に、就きたい職業を選ぶことができるようになった。しかし現実には、自分がやりたい仕事は何があるかを見極めることはなかなか難しい。その希望がかなうこともまた大変難しい。イギリス文学でもこうした問題を扱った作品は数多くある。この講義では特に、19世紀から20世紀にかけて書かれたイギリス小説において、主人公たちが自分の職業選択の問題をどうよに解決しようとしていたかを探らする。</p>	[講義計画] <p>19世紀以降のイギリス小説を幾つか取り上げ、それぞれの主人公が(どう)職業を築いた、(どう)に(どの)経験と向き合い、具体的に見ている。取り上げるものは、Brontë姉妹、Eliot, Hardy, Gissing, Joyce等の描いた小説がある。</p>			
[成績評価の方法] <p>定期試験の成績と平常点との総合評価による。平常点には出席状況及び授業にどの程度積極的に参加したかなども考慮する。</p>	[参考文献] <p>授業中に指示する。</p>			
[教科書] <p>授業中に指示する。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
現代の諸問題と英米文学Ⅲ (エコロジー) (旧英米文学特講Ⅳ)		前 期	2単位	谷 本 泰 三
【講義概要・学習目標】 英米の作家達にとって環境問題は今に始まったことではなかった。彼らが自然を描くとき、そして自然と人間のかかわりあいを描くとき、彼らは、鋭くエコロジカルな問題を提示して読者に迫ってくる。作品を注意深く検討することによって、彼らが暗示しようとする問題を捉えてみよう。	【講義計画】 Herman Melville <i>Moby-Dick</i> William Wordsworth "Expostulation and Reply" "The Table Turned" R. W. Emerson "Each and All" Emily Dickinson "How Happy is the little Stone" Robert Frost "Mending Wall"			
【成績評価の方法】 期末試験および平素の努力	【参考文献】			
【教科書】 谷本泰三（著）「講義概要・学習の手引」				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
現代の諸問題と英米文学Ⅳ (死と再生) (旧英米文学特講Ⅳ)		後 期	2単位	谷 本 泰 三
【講義概要・学習目標】 生きるということは、いったいどういうことなのだ。生きている者にとって死とは何であるのか。このような問いに答えるべく、英米の多くの詩人や作家が作品を発表してきた。彼らは死を凝視し、その様を作品化することによって生きることの意味を鮮烈に描いた。取り上げる作品を精読して、生と死の問題を受講生と一緒に考えてみたい。	【講義計画】 John Milton "On the Late Massacre in Piedmont" P. B. Shelley "Ode to the West Wind" Ernest Hemingway "The Snows of Kilimanjaro" 黒人霊歌 "When the Saints go marching in" "Deep River"			
【成績評価の方法】	【参考文献】			
【教科書】				